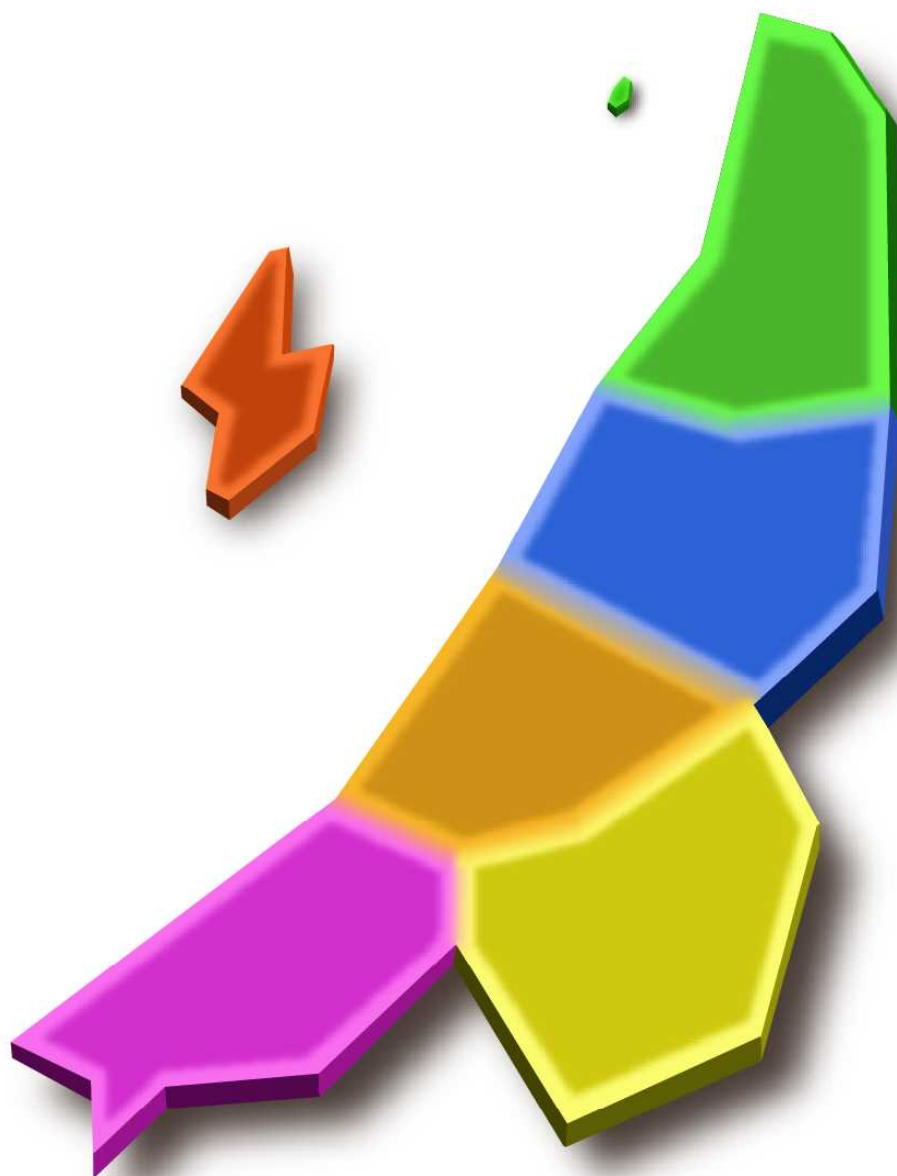


県立高校の将来構想

— 中長期を見据えた魅力ある学校づくり —



平成28年3月
新潟県教育委員会

はじめに

本県の中学校卒業者数は、昭和38年春の70,499人をピークに、減少傾向が続き、平成27年春には21,693人となっています。高校進学率は、平成16年以降、毎年99%を超え、中学校卒業者のほぼ全員が高校に進学する状況にありますが、今後も子どもの数が減少する中で、高校入学者の減少が見込まれています。

また、今日では、本格的な人口減少社会の到来や市町村合併の進展、グローバル化や情報化が進む中での社会経済構造の変化、技術革新の急速な進展等により人々の価値観も多様化してきています。

このような状況を踏まえ、伝統文化を継承し、地域社会や地域産業の発展・振興を担う人材、高度な技術を追求し、明日の日本を支える人材、国際的な視野を備え、高い志をもってグローバル社会を切り拓く人材など、新たな人づくりを推進する教育が求められてきていることから、この度、中長期的なビジョンである「県立高校の将来構想 ―中長期を見据えた魅力ある学校づくり―」（以下、「将来構想」という。）を策定することとしました。

本構想の策定にあたっては、学識経験者や市町村、産業界、学校関係者の代表の皆様で構成する外部有識者会議を設置し、今後の本県高校教育のあるべき姿などについて様々なご意見をいただくとともに、県内外の中学生・高校生及びその保護者、教育関係者などを対象とした意識調査の結果などを踏まえ、中長期的な視点で県立高校のあり方を検討しました。本構想は、これからの高校教育の充実を目指す魅力的な学校づくりの方向性をまとめたものです。

県教育委員会としては、今後も、未来を切り拓く、たくましい人づくりを目指した教育を推進してまいります。県民の皆様には、社会の変化に対応した魅力ある学校づくりについてご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

目 次

I 「将来構想」の基本的な考え方

- 1 「将来構想」の策定にあたって 1
 - (1) 「将来構想」の趣旨
 - (2) 「将来構想」の期間等
 - (3) 「将来構想」の策定過程
- 2 「将来構想」における留意すべき視点 3
 - (1) 社会状況の変化への対応
 - (2) 中学校卒業者数の減少への対応
 - (3) 多様な生徒への対応
- 3 「将来構想」の方針 5
 - (1) 3つの基本方針
 - (2) 適正な学校規模
 - (3) 学校・学科の配置
 - (4) 県立高校と市立・私立高校との関係

II 「将来構想」における高校のすがた

- 1 目指す高校のすがた 10
 - ◇ 専門分野を探究する高校
 - ◇ 学科総合型の産業高校
 - ◇ 大学進学を重視した学究型の高校
 - ◇ 総合選択制の高校
 - ◇ 柔軟な学びを可能とする高校
- 2 地域と連携した特色ある高校 12

Ⅲ 「将来構想」における高校の配置	13
Ⅳ エリアごとの構想	
エリア①	15
＜新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村＞	
エリア②	19
＜新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町＞	
エリア③	23
＜長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村＞	
エリア④	27
＜十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町＞	
エリア⑤	31
＜糸魚川市、妙高市、上越市＞	
エリア⑥	35
＜佐渡市＞	
Ⅴ 再編整備の概要【平成30年度～平成39年度】	39
Ⅵ 平成30年度県立高等学校、県立中学校、県立中等教育学校の募集学級数の見込み	41
【資料編】	44

I 「将来構想」の基本的な考え方

1 「将来構想」の策定にあたって

(1) 「将来構想」の趣旨

新潟県では、生徒一人一人の個性や能力を伸ばし、確かな学力、豊かな人間性やたくましさを育む教育を推進するため、平成14年12月に「中長期高校再編整備計画」を策定し、平成25年度までの再編整備の方向性を示しました。以後、この計画に基づき、毎年、向こう3年間の具体的な内容を盛り込んだ年次計画案を公表し、県立高校(注1)の特色ある学校づくりを進めてきました。

同計画が終了した今日においても、人口の社会減への対応や人づくりの推進など、明日の新潟の飛躍につながる取組が引き続き課題となっています。また、産業界からは経済構造が変化する中で、即戦力となる人材の育成が求められています。

こうした中で、新たな価値を創造し、社会の各分野をリードする人づくりを推進することから、今後の学校・学科のあり方について、あらためて中長期的な視点に立った計画を策定することとしました。

(2) 「将来構想」の期間等

地域の実情に応じた新たな学校・学科の設置や再編においては、検討期間も含め、中長期的な見通しが必要なことから、概ね10年程度の計画が不可欠と考え、本構想の計画期間を平成30年度から平成39年度までとしました。

本構想は、今後の県立高校のあるべき姿を示すものであり、具体的な内容については、地元関係者からの意見にも配慮しながら「3年ごとの計画」を毎年策定し、公表していくこととします。

また、高校教育を取り巻く状況の変化や、国の制度改正などに伴い、必要に応じて本構想の見直しを行っていきます。

なお、本構想の計画期間が終了した後も、様々な社会情勢の変化や県としての新たな課題などに対応するため、平成40年度以降のビジョンも示していく必要があると考えています。

(注1) 本構想における「県立高校」には、県立中等教育学校後期課程を含みます。

(3) 「将来構想」の策定過程

本構想は、これからの県立高校がどうあるべきか、また、魅力と活力ある学校づくりをどう進めていくべきか、などについて広く様々な意見をお聞きし、そこで示された課題等も踏まえ、策定することとしました。

このため、学識経験者や市町村、産業界、学校関係者の代表で構成する外部有識者会議を設置するとともに、県内すべての市町村長、市町村教育委員会教育長、公立学校(注2)の校長及びPTA会長、公立中学校や高校の生徒及び保護者を対象として、「高校の再編整備の必要性」や「高校の適正規模」、「魅力を感じる高校像」などについてアンケート調査を実施しました。また、首都圏及び隣接県の中学生・高校生とその保護者に対しても同様の調査を行いました。

いただいた意見等を踏まえて、本構想の素案を作成した後、地域別説明会やパブリックコメントを実施し、あらためて県民の皆様に意見を伺い、成案としたものです。

(注2) 今回アンケートを実施した公立学校は、公立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校です。

2 「将来構想」における留意すべき視点

(1) 社会状況の変化への対応

高度情報化の進展や、社会・経済のグローバル化、技術革新等に伴う産業構造の変化に加え、地域社会や家族の変容など、社会が急速に変化しています。

一方で、本県においては、人口減少・少子高齢化が進展しており、このまま推移すれば、平成26(2014)年のおよそ231万人の県人口が、平成72(2060)年には134万人にまで減少すると見込まれており(注3)、将来の労働力人口の減少や地域活動の担い手不足による地域経済の縮小、地域の活力の低下などが懸念されています。

こうした中、高齢化社会に対応した医療等に従事する人材や技術革新を生み出す人材、世界的視野で行動できる人材の育成が求められています。加えて、人口減少下にあっても地域の産業や地域社会を支える人づくりを推進するため、学校や教育関係者だけでなく地域や産業界等とも様々な教育課題を共有し、解決する体制づくりが必要になると考えています。

さらに、地域の伝統ある技能・技術や文化を継承していく人づくりも課題であると考えています。

(2) 中学校卒業生数の減少への対応

本構想の最終年にあたる平成39年春の中学校卒業生数は、およそ17,800人と見込まれ、平成27年春の21,693人と比べて、3,900人程度減少すると推計されています。この減少数を1クラス40人として換算すると97学級に相当し、1学年6学級規模の学校で、およそ16校分にあたります。

こうした状況にあっても、適正な学校規模を確保しつつ、県外の生徒も学びたくなるような魅力ある学校づくりを進め、教育の質的な向上や、学校の活性化などを図る必要があると考えています。

(注3) 平成72年の県人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づくものです。

(3) 多様な生徒への対応

これまでも、生徒の多様なニーズに対応するため、単位制による定時制や、総合学科、中高一貫教育校など様々な特色ある学校・学科を設置し、中途退学率が低下するなど一定の成果があったとの評価を得ています。

しかしながら、将来の目標をもって何事にも意欲的に取り組む生徒がいる一方、少数とはいえ、高校生活に明確な目的を見いだせない生徒もいるなど、学習や将来に対する意欲が二極化する傾向が見られます。また、スマートフォンなどの通信機器の普及により、生徒個人が多岐にわたる情報を容易に収集できる環境にあり、興味・関心も多様化しています。さらに、各学校には、不登校生徒や特別な教育的支援を必要とする生徒(注4)への対応もこれまで以上に求められています。

こうした中、個に応じた教育が一層求められており、小学校・中学校とも連携しながら、様々な生徒に対応できる学校づくりを進めることが課題であると考えています。

(注4) 通常の学級に在籍する知的発達に遅れはないものの学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の発達障害の可能性があり、学習や生活の面で個別の教育的ニーズのある生徒のことです。

3 「将来構想」の方針

(1) 3つの基本方針

本県では、社会で生きるために必要な基礎的能力の育成を図るとともに、一人一人の個性を尊重し、伸ばしていく「個を伸ばす教育」を、教育の基本理念として、教育施策のより積極的で具体的な展開を図る「新潟県教育振興基本計画」を策定しました。

この計画では、「ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し未来を切り拓く、たくましいひとづくり」を掲げ、これからの県の発展に参画できるような人材を育成することを目指しています。

前述のように、社会状況の変化や中学校卒業生数の減少、多様な生徒への対応など、県としての様々な課題が指摘されており、高校段階では、生徒一人一人が夢の実現に向けてチャレンジすることができるような魅力と活力ある学校づくりを推進する必要があります。

このため、本構想では、次の3点を基本方針としました。

◇ 様々な分野で活躍できるグローバル人材を育成する教育の推進

国際的な視野を広げ、自身で考え判断し、主体的に行動する力や、他者と協調・協働する力の養成に努めます。

◇ 県外の生徒も学びたくなる魅力的な学校づくりの推進

他県にはなく、県外の生徒も魅力を感じる学校・学科などの設置により、高校教育の一層の活性化に努めます。

◇ 地域との連携を深化させた人づくりの推進

地域への理解を深め、郷土愛を育むことで、地域の産業や地域社会を支える人づくりの推進に努めます。

(2) 適正な学校規模

高校段階では、様々な人とふれ合う中でコミュニケーション能力を身に付け、他者と協働しながら様々な課題を解決していく資質や能力を育むことが期待されていることから、幅広い教育活動を提供し、生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす教育環境の整備が求められています。

こうしたことから、1学級あたりの生徒数を40人とし、適正な学校規模を1学年あたり4～8学級(注5)として、多様な科目が展開できるよう一定の教員数を確保するなどして、教育の質的な向上と学校の活性化を図ることを基本とします。

1学年あたり4～8学級のメリットとして、

- ◇ 多様な人間関係の中で切磋琢磨する機会が増えること
- ◇ 一人一人の興味・関心や進路希望に応じて選択できる科目が増えること
- ◇ 多様な部の設置や部員数の確保が可能となり、部活動が充実すること

などがあり、教育の質的な向上と学校の活性化が図られることから、本構想の方針を踏まえた再編整備を進め、学校規模の適正化に努めていきます。

なお、適正規模に満たない学校については、他校との統廃合を検討していきますが、他にはない特色ある教育活動を展開する上で、あえて小規模が妥当とする学校もあり得ると考えています。

(注5) 全国では、42都道府県が高校の適正規模の基準を設けており、そのうち25道県が1学年あたり4～8学級を適正規模としています。(新潟県教育庁高等学校教育課調べ)

なお、本県では1学級あたりの生徒数を「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」で「標準」とされている40人としています。

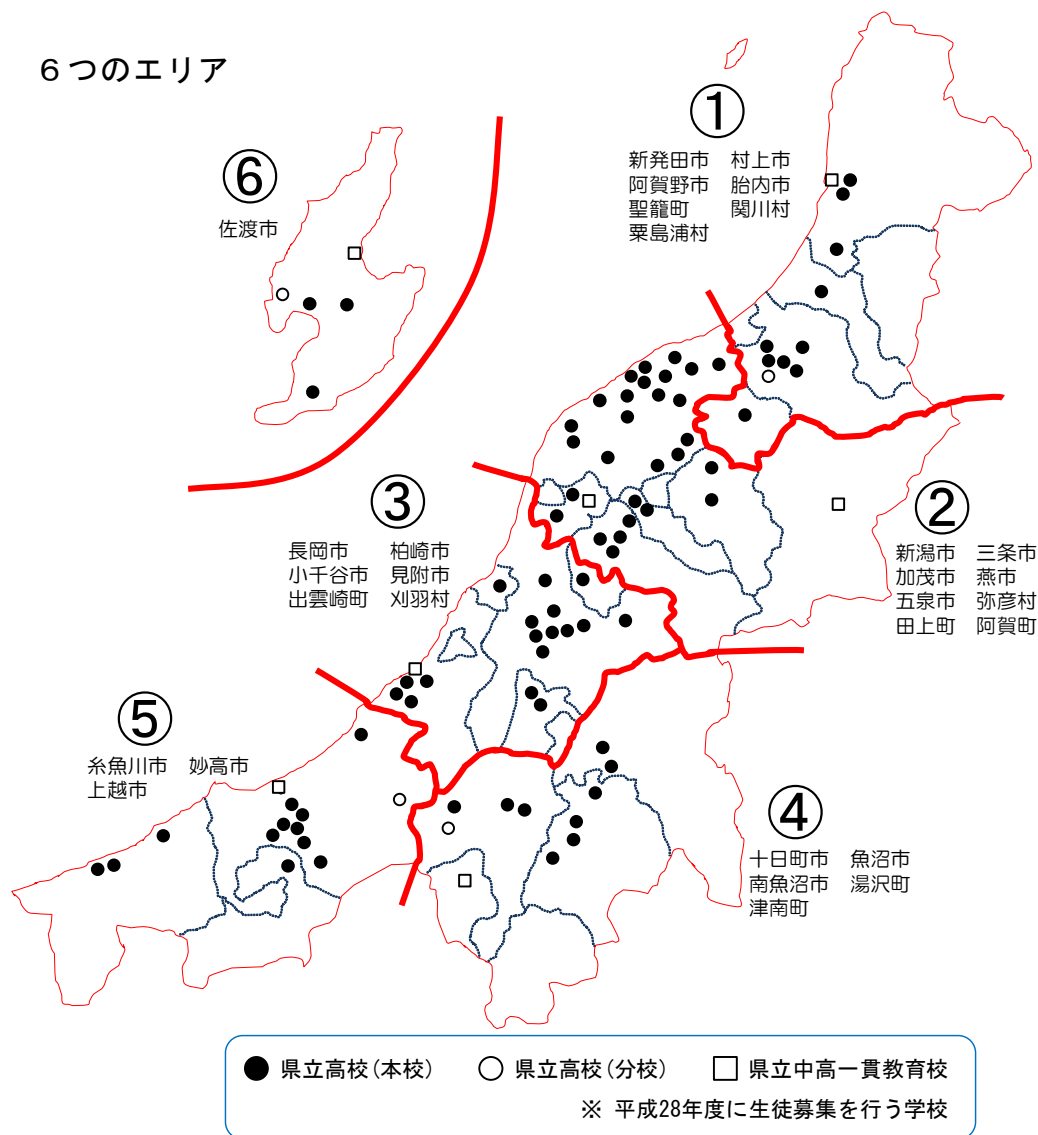
(3) 学校・学科の配置

本県では、平成19年に「新潟県公立高等学校の通学区域に関する規則」を廃止しましたが、その後も、従来の通学区域を基にした8つのエリアごとの状況を踏まえ、再編整備計画や募集学級計画を策定してきました。

現在では、市町村合併が進み、かつての112市町村(注6)から30市町村となり、県民の意識や生活圏などに様々な変化があらわれてきています。これまでのエリアでは1つの市が複数のエリアにまたがっていることや、通学範囲が従来に比べて広域化していることなどから、本構想の策定にあたって、様々な観点で検討した結果、現在の市町村を基に6つのエリアに分けて対応を考えることとしました。

就学の機会にも配慮し、交通事情などそれぞれのエリアの状況を斟酌しながら、必要な学校・学科等をバランスよく配置したいと考えています。

◆ 6つのエリア



(注6) 平成12年12月現在の市町村の数です。

【参考】これまでの地域区分

下表の市町村名は、平成15年4月現在のものです。

旧地域	市 町 村 名
新発田・村上地域	新発田市、村上市、豊栄市 北蒲原郡安田町、京ヶ瀬村、水原町、笹神村、豊浦町、聖籠町、加治川村、紫雲寺町、中条町、黒川村 岩船郡関川村、荒川町、神林村、朝日村、山北町、粟島浦村
新津・五泉地域	新津市、五泉市 中蒲原郡小須戸町、村松町 東蒲原郡津川町、鹿瀬町、上川村、三川村
新潟地域	新潟市 中蒲原郡横越町、亀田町 西蒲原郡味方村
三条・西蒲地域	三条市、加茂市、燕市、白根市 西蒲原郡岩室村、弥彦村、分水町、吉田町、巻町、西川町、潟東村、月潟村、中之口村 南蒲原郡田上町、下田村、栄町
長岡・柏崎地域	長岡市、柏崎市、見附市、栃尾市 南蒲原郡中之島町 三島郡越路町、三島町、与板町、和島村、出雲崎町、寺泊町 古志郡山古志村 刈羽郡高柳町、小国町、刈羽村、西山町
魚沼地域	小千谷市、十日町市 北魚沼郡川口町、堀之内町、小出町、湯之谷村、広神村、守門村、入広瀬村 南魚沼郡湯沢町、塩沢町、六日町、大和町 中魚沼郡川西町、津南町、中里村 東頸城郡松代町、松之山町
上越地域	糸魚川市、新井市、上越市 東頸城郡安塚町、浦川原村、大島村、牧村 中頸城郡柿崎町、大潟町、頸城村、吉川町、妙高高原町、中郷村、妙高村、板倉町、清里村、三和村 西頸城郡名立町、能生町、青海町
佐渡地域	両津市 佐渡郡相川町、佐和田町、金井町、新穂村、畑野町、真野町、小木町、羽茂町、赤泊村

(4) 県立高校と市立・私立高校との関係

本県には市立高校として、新潟市に全日制課程普通科系の高校、定時制課程の高校、中等教育学校の3校があります。

また、私立高校は、全日制課程普通科系の高校や通信制課程の高校など県内に19校存立し、それぞれ建学の精神や教育理念に基づき、特色ある教育活動を展開しています。

県では、毎年、県立高校と市立・私立高校及び中学校の関係者が意見交換をする場を設け、中学校卒業者数の見通しや、各学校の入学状況等について情報交換を行っているところです。

今後は、県立高校と市立・私立高校における募集学級数のあり方なども課題と考えています。

【参考】県立高校と市立・私立高校の募集定員比率の推移

年 春	平成17年春	平成22年春	平成27年春
中学校卒業者数 (5年前との差)	25,480人 —	24,036人 (▲1,444人)	21,693人 (▲2,343人)
県立高校の定員比率	78.7%	78.6%	77.2%
市立高校の定員比率	2.9%	2.6%	2.3%
私立高校の定員比率	18.4%	18.8%	20.5%

※ 市立高校とは、新潟市立の高校・中等教育学校後期課程のことです。

※ 県立高校及び私立高校の定員比率に、通信制課程は含まれていません。

Ⅱ 「将来構想」における高校のすがた

1 目指す高校のすがた

「将来構想」における高校のすがたについては、前述の「3つの基本方針」を踏まえ、新たな学校づくりを目指すこととしています。

現在、普通科系の高校においては、ほとんどの生徒がいわゆる難関大学を希望する高校がある一方、専門学校等への進学や企業への就職など、生徒の進路希望が多岐に渡る高校もあります。また、専門高校においても、地元企業等への就職だけではなく、大学等への進学を希望する生徒も一定数います。

このような状況も踏まえ、本構想では、これからの高校に求められる役割や各高校の特色をより一層明確にし、中学生が将来の夢を描きながら主体的に高校を選択できるよう、これまでの学校・学科の枠にとらわれない高校の位置付けが必要と考え、今後の高校のあり方を卒業後の進路や高校での学習活動等の視点で検討し、目指す高校のすがたとして、本県独自に次の5つのタイプを設定しました。

◇ 専門分野を探究する高校

専門分野を探究し、社会の第一線で活躍する人材を育成する高校です。

本県の専門教育における中心的な役割を担い、地域の産業界や大学などの高等教育機関との連携を図り、高度な専門的知識や技術・技能を身に付けさせたいと考えます。

また、世界に誇ることができる日本の技術を広く海外に発信できるよう、グローバルな視点をもって、産業界をリードする人材の育成に努めていきます。

このため、専門性をさらに高めるために、県内大学や専門学校をはじめとする上級学校への進学も視野に入れています。

◇ 学科総合型の産業高校

複数の専門学科からなり、学科の枠を越えた学習も可能な高校です。

農業・工業・商業などの専門分野における知識や技術・技能を身に付けさせることに加え、他学科の学習も選択できる仕組みにより、学科横断的な学習が可能になると考えています。

農業分野における6次産業化に対応できる人材や、工業分野における企業経営のノウハウを持った起業家など、新たなニーズを捉え、産業界で活躍できる人材の育成に努めていきます。

このため、県内大学や専門学校をはじめとする上級学校への進学も視野に入れています。

◇ 大学進学を重視した学究型の高校

生徒のほぼ全員が大学に進学する高校です。

高校卒業後も、より高いレベルの課題に挑戦し、主体的に研究していく人材を育てます。そのため、確かな学力や幅広い知識を身に付けさせることはもちろん、社会のグローバル化が加速する中、語学力とコミュニケーション能力の向上を図るとともに、我が国や諸外国の文化に対する理解を深め、県や国のリーダーとして社会の様々な分野で活躍できる人材の育成に努めていきます。

◇ 総合選択制の高校

普通科目とともに、専門的な知識や技能を学ぶ科目を選択できる高校です。

生徒の多様な進路希望や興味・関心などに対応するため、体験的な学習や専門的な学習が可能となるコースなどを設置します。

なお、専門的な知識や技能を学ぶにあたっては、地元産業界と連携し、インターンシップやデュアルシステムなどを積極的に進め、地域の産業を支える人材の育成に努めていきます。

このため、地元への就職の他、県内大学や専門学校をはじめとする上級学校への進学も視野に入れています。

◇ 柔軟な学びを可能とする高校

生徒の多様な学習歴や適性に柔軟に対応する高校です。

この高校では、生徒の多様化が進む中であっても、選択する科目や時間割を自分に合わせて設定できることから、学び直しなど、様々なニーズに対応することが可能になると考えています。

きめ細かな学習指導や相談体制の充実を図るとともに、キャリア教育等をとおして、一人一人の個性を尊重し、豊かな人間性や社会性を育むことに努めていきます。

このため、地元への就職の他、県内大学や専門学校をはじめとする上級学校への進学も視野に入れています。

いずれのタイプの高校でも、地域や社会状況の変化等に対応して常に学校運営の見直しを図りながら、生徒が自らの将来を設計し、自立して生きていく力を育む教育をより一層進めていきます。

2 地域と連携した特色ある高校

上記の5つのタイプの高校の中には、地域との連携をより深化させ、他にはない特色ある教育を実践する高校も想定しています。

これらの高校では、市町村や地元企業などと連携した特色ある教育活動により、地域産業の活性化や、スポーツの振興、伝統文化の継承など、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指すとともに、コミュニティへの参画や地域課題の解決をとおして、一人一人の能力の伸長と地域の活性化につながる取組も行われるものと考えています。

Ⅲ 「将来構想」における高校の配置

高校の配置にあたっては、「3つの基本方針」に従い、6つのエリアごとに検討し、「Ⅱ 『将来構想』における高校のすがた」にある5つのタイプの高校をバランスよく配置することに努めます。

以下の表では、学級数を基にしたタイプ別の割合を示しました。

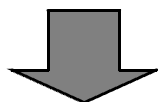
◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等（表1）

学科等 (学級数)	専門学科系 (90)	総合学科 (41)	普通科系 (245)	中高一貫 教育校 (15)	定時制 通信制 (注 7) (18)	中学校 卒業生数 21,236人
割 合 (%)	22.0	10.0	59.9	3.7	4.4	募集学級計 409
	32.0		63.6		4.4	

【参考】	新潟市立高校募集学級数計	13
	私立高校募集学級数計	115

※普通科系：普通科・国際文化科・情報科学科・理数科・国際科学科・国際教養科・体育科・音楽科

※専門学科系：農業科・工業科・商業科・水産科・家庭科・福祉科の各学科



◆ 平成39年春のすがた（表2）

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学究 型の高校	柔軟な学びを 可能とする 高校	中学校 卒業者数 17,790人
割 合 (%)	15	10	25	45	5	募集学級計
	50			45	5	330(注8)

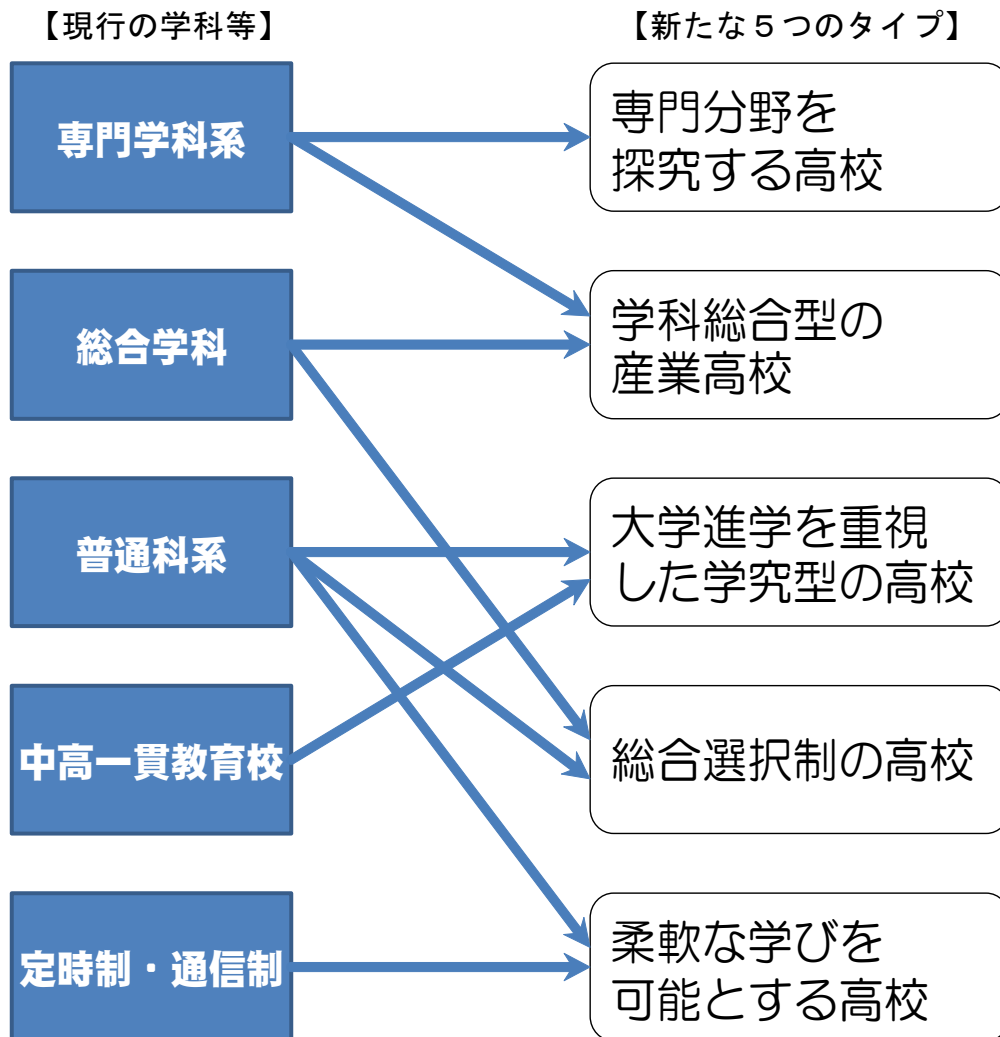
※表中の割合はおおよその数値です。

(注7) 通信制課程は、募集定員を若干人とし、学級数を示していないため括弧内の学級数には含まれていません。

(注8) 表2における募集学級計は、表1の【参考】で示した平成28年度の新潟市立高校と私立高校の募集学級及び募集定員が、平成39年度も同じであるという前提で県立高校の募集学級数を算定したものです。

【参考】将来構想における高校のすがた

現行の学科等を新たな5つのタイプに位置付けたイメージです。

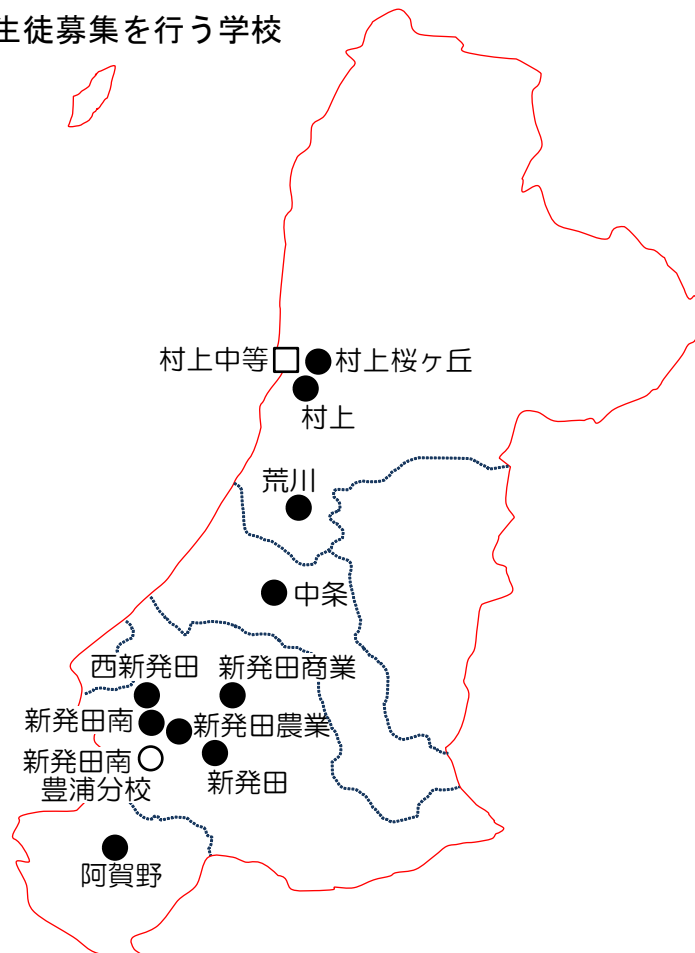


Ⅳ エリアごとの構想

エリア①

＜新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村＞

◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km ²)	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
新発田市	98,880	532.82	7.4%	29.4%	62.0%	農産物加工品、酒、機械・精密電子部品、窯業・土石製品、生産用・はん用機械器具
村上市	63,016	1174.24	9.7%	31.2%	58.7%	航空機内装品、菓子、米菓、日本酒、木製建材、越後スギブランド材、建具、塩引鮭、堆朱、しな布
阿賀野市	43,864	192.74	9.9%	33.8%	53.8%	瓦、陶器、石材、乳製品、めん類、地ビール、半導体部品、米菓、日本酒、もち、豆腐
胎内市	30,200	265.18	11.1%	35.3%	53.3%	変圧器、メタクリル樹脂、自動車用装飾品、洋傘、寝具、ニット製品、油脂用精製剤、太陽電池製造装置、米粉
聖籠町	13,907	37.58	9.5%	35.4%	54.4%	電気、ガス、水産加工食品
関川村	5,958	299.61	20.2%	30.5%	49.1%	ニット製品、電気機械部品、セメント製造品
粟島浦村	368	9.78	33.8%	8.3%	57.6%	水産食料品
エリア計 (対県割合)	256,193 (11.1%)	2511.95 (20.0%)	9.3%	31.6%	58.0%	

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「理数教育重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)」と思った高校が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	・西新発田高校を「柔軟な学びを可能とする高校」に改組する。 ・新発田南高校豊浦分校を募集停止とする。
平成31年度 ↓ 平成34年度	・普通科系の高校を「総合選択制の高校」に改組する。 ・メディカルコースを設置する。
平成35年度 ↓ 平成39年度	・普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、「総合選択制の高校」を設置する。 ・専門学科系の高校を統合し、「学科総合型の産業高校」を設置する。
検討事項	・地域と連携した特色ある高校を検討する。 ・医療専攻の設置を検討する。

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科等 (学級数)	専門学科系 (13)	総合学科 (4)	普通科系 (27)	中高一貫 教育校 (2)	定時制 通信制 (3)	中学校 卒業者数 2,435人
割 合 (%)	26.5	8.2	55.1	4.1	6.1	募集学級計
	34.7		59.2		6.1	49



◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学究 型の高校	柔軟な学びを 可能とする 高校	中学校 卒業者数 1,944人
割 合 (%)	15	20	20	35	10	募集学級計
	55			35	10	38

【参考】

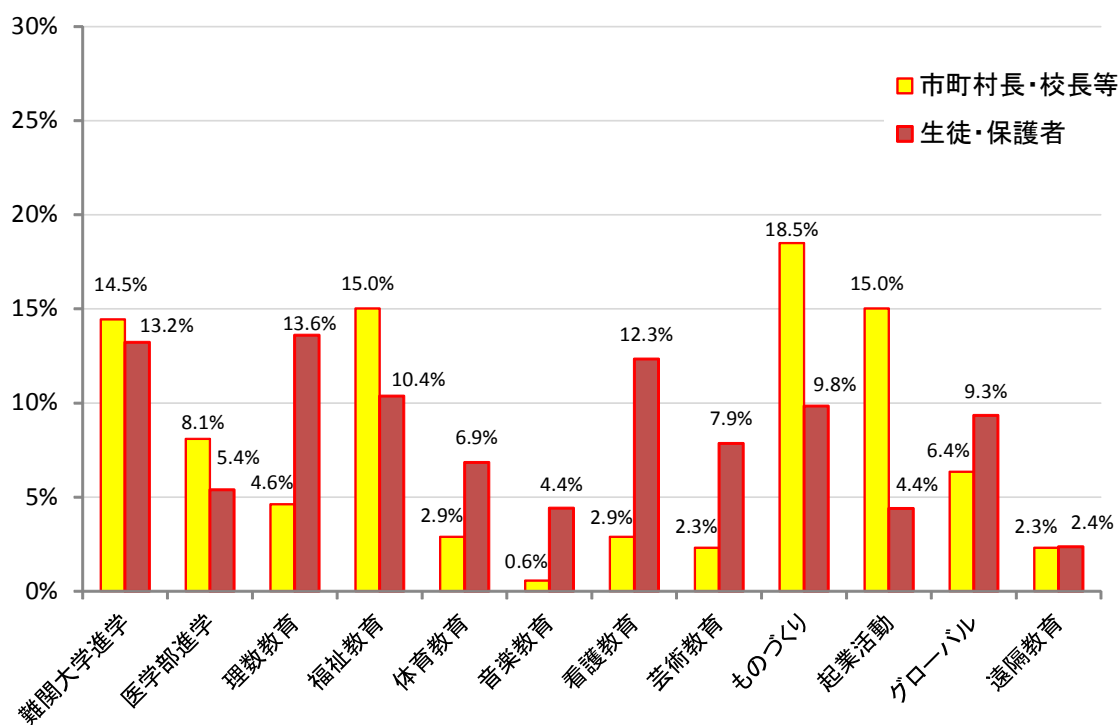
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】

以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。(ひとつだけ)

【選択肢】

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1 難関大学進学重視型 | 2 医学部進学重視型 | 3 理数教育重視型 |
| 4 福祉教育重視型 | 5 体育教育重視型 | 6 音楽教育重視型 |
| 7 看護教育重視型 | 8 芸術教育重視型 | 9 ものづくり重視型 |
| 10 起業活動重視型 | 11 グローバル教育重視型 | 12 遠隔教育型 |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

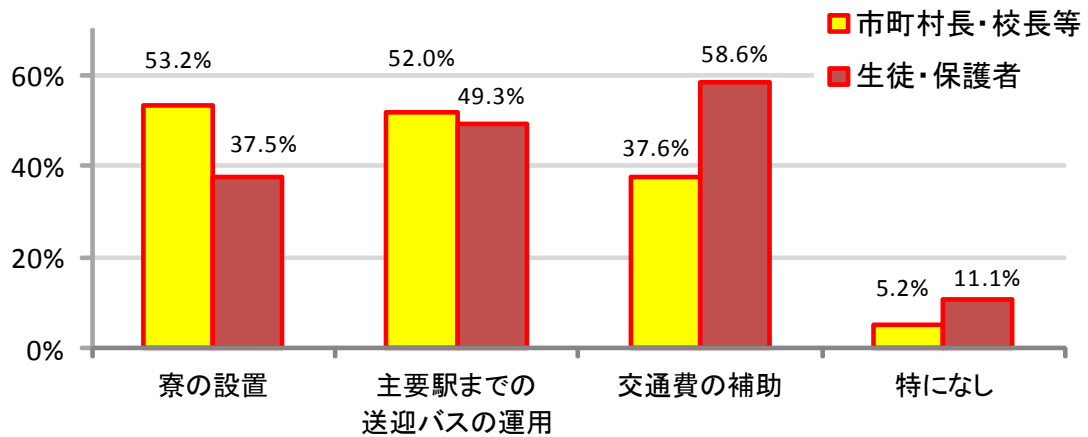
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

【質問２】

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

【選択肢】

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 寮の設置 | 2 主要駅までの送迎バスの運用 |
| 3 交通費の補助 | 4 特になし |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

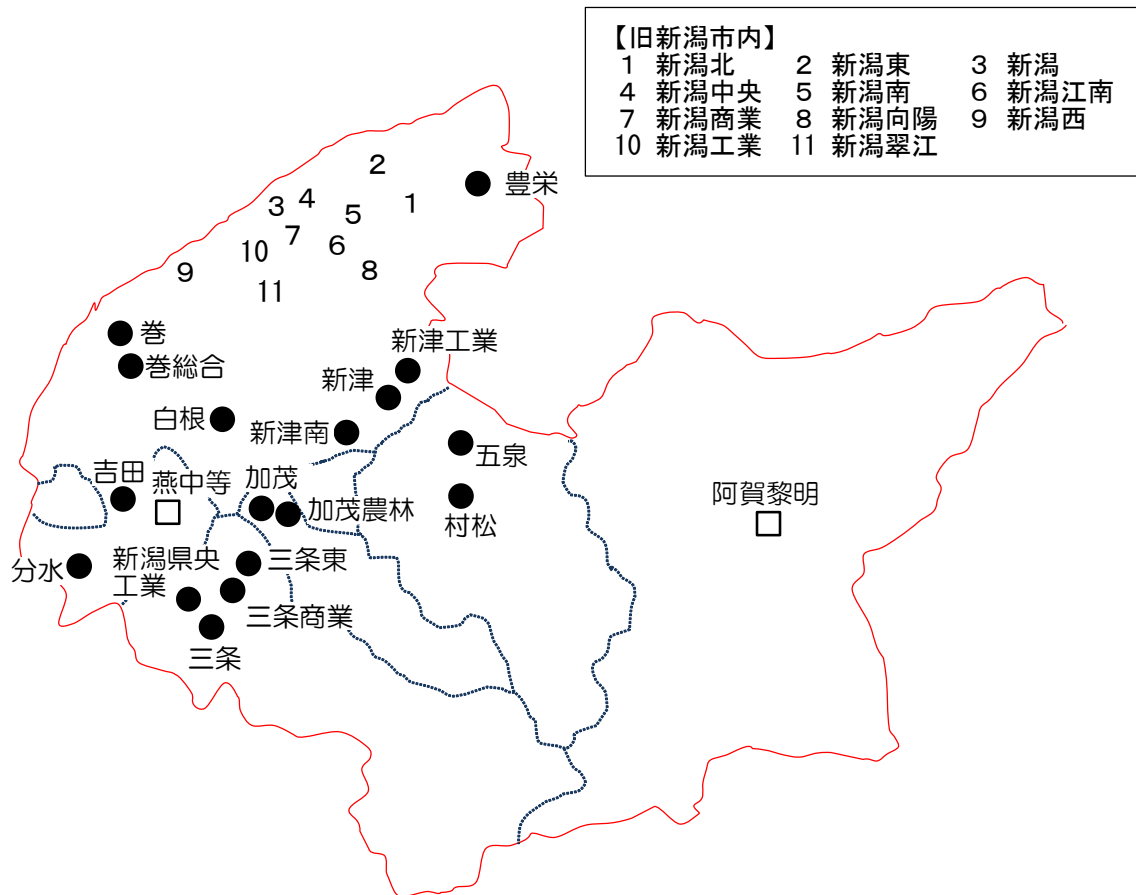
生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

エリア②

＜新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町＞

◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km ²)	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
新潟市	808,143	726.10	3.6%	21.3%	71.0%	米菓、水産練製品、清酒、製紙、金属製品、化学工業製品
三条市	99,285	432.01	4.2%	35.3%	57.8%	作業工具、利器工匠具、金型・機械部品、冷暖房機器
加茂市	28,269	133.68	7.6%	35.6%	55.7%	桐箆筥、和洋家具、木工製品、家電製品、ニット製品
燕市	80,409	110.94	3.8%	41.0%	51.7%	金属ハウスウェア(テーブルウェア、キッチンウェア)、金属洋食器
五泉市	51,966	351.87	8.3%	37.8%	53.0%	ニット製品、絹織物
弥彦村	8,288	25.17	7.9%	35.3%	56.5%	金属洋食器
田上町	12,311	31.71	7.0%	33.1%	59.7%	焼瓦、木工製品、ニット製品
阿賀町	12,033	952.88	8.5%	32.4%	58.7%	清酒、山菜加工品、味噌、漬物、切もち、産業用部品、ベントナイト
エリア計 (対県割合)	1,100,704 (47.6%)	2764.36 (22.0%)	4.1%	25.7%	66.5%	

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「難関大学進学重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)」と思った高校が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	・阿賀黎明中学校を募集停止とする。
平成31年度 ↓ 平成34年度	・普通科系の高校を「柔軟な学びを可能とする高校」に改組するとともに、通信制課程を設置する。 ・普通科系の高校を統合し、「総合選択制の高校」を設置する。 ・普通科系の高校と専門学科系の高校を統合し、「専門分野を探究する高校」を設置する。 ・メディカルコースを設置する。
平成35年度 ↓ 平成39年度	・普通科系の高校を統合し、「総合選択制の高校」を設置する。 ・普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、「総合選択制の高校」を設置する。 ・専門学科系の高校を統合し、「学科総合型の産業高校」を設置する。
検討事項	・地域と連携した特色ある高校を検討する。 ・先端産業を学ぶ学科等の設置を検討する。

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科等 (学級数)	専門学科系 (34)	総合学科 (11)	普通科系 (121)	中高一貫 教育校 (4)	定時制 通信制 (2)	中学校 卒業者数 9,933人
割 合 (%)	19.8	6.4	70.3	2.3	1.2	募集学級計 172
	26.2		72.6		1.2	



◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学究 型の高校	柔軟な学びを 可能とする 高校	中学校 卒業者数 8,616人
割 合 (%)	15	5	25	50	5	募集学級計 143
	45			50	5	

【参考】

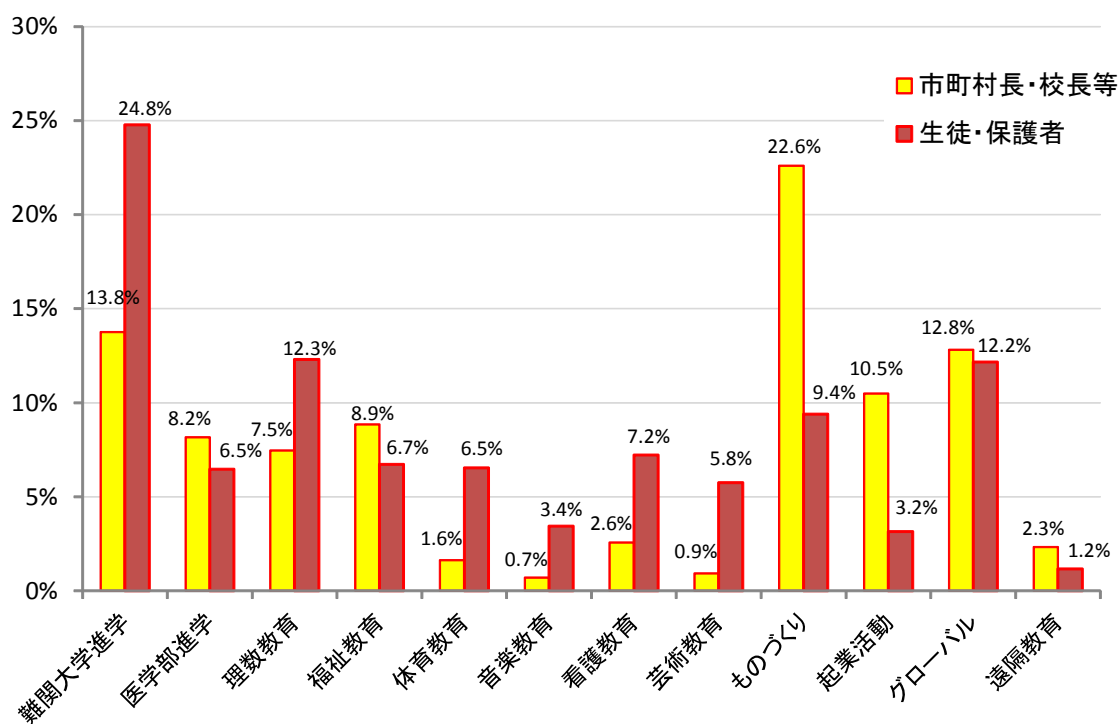
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】

以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。(ひとつだけ)

【選択肢】

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1 難関大学進学重視型 | 2 医学部進学重視型 | 3 理数教育重視型 |
| 4 福祉教育重視型 | 5 体育教育重視型 | 6 音楽教育重視型 |
| 7 看護教育重視型 | 8 芸術教育重視型 | 9 ものづくり重視型 |
| 10 起業活動重視型 | 11 グローバル教育重視型 | 12 遠隔教育型 |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

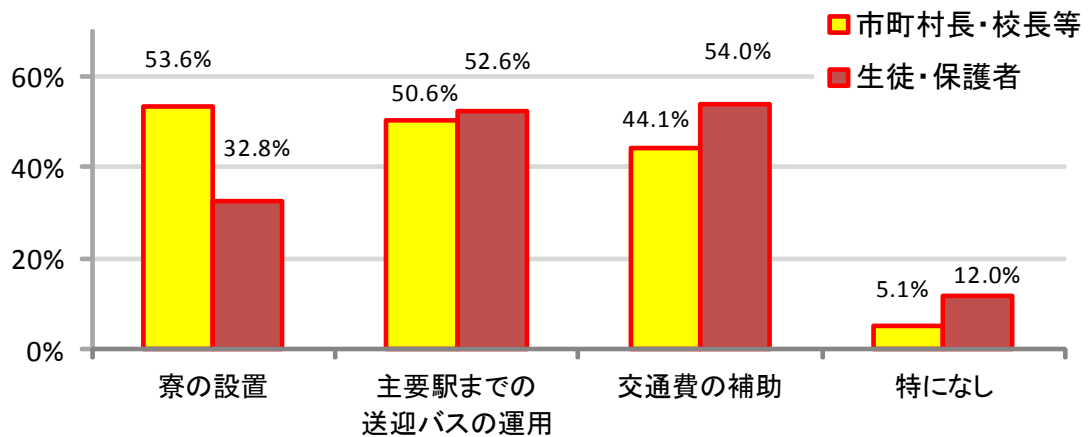
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

【質問２】

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

【選択肢】

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 寮の設置 | 2 主要駅までの送迎バスの運用 |
| 3 交通費の補助 | 4 特になし |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

エリア③

＜長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村＞

◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km ²)	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
長岡市	276,243	891.06	4.3%	31.4%	62.1%	工作機械、食料品、電子部品、金属製品、鉄鋼铸件、繊維、清酒
柏崎市	87,729	442.70	3.8%	35.6%	59.7%	ビストンリング、ビスケット、米菓、プリンター、ポンプ、パネ、冷暖房機器、伸線機、二次電池
小千谷市	36,774	155.19	7.9%	38.7%	53.2%	半導体、精密機械、清酒、米菓、織物
見附市	40,862	77.96	4.0%	35.3%	59.3%	プラスチック製品、一般機械器具、金属製品、ニット製品、織物製品
出雲崎町	4,542	44.38	9.4%	35.4%	55.0%	自動車部品、牛乳、段ボール、紙風船
刈羽村	4,723	26.27	5.8%	39.0%	54.9%	自動調節バルブ
エリア計 (対県割合)	450,873 (19.5%)	1637.56 (13.0%)	4.6%	33.3%	60.5%	

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「難関大学進学重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)と思った高校」が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	
平成31年度 ↓ 平成34年度	・普通科系の高校を統合し、「大学進学を重視した学究型の高校」を設置する。
平成35年度 ↓ 平成39年度	・普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、「総合選択制の高校」を設置する。
検討事項	・地域と連携した特色ある高校を検討する。 ・医療専攻の設置を検討する。

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科等 (学級数)	専門学科系 (21)	総合学科 (11)	普通科系 (40)	中高一貫 教育校 (2)	定時制 通信制 (6)	中学校 卒業者数 4,141人
割 合 (%)	26.3	13.7	50.0	2.5	7.5	募集学級計 80
	40.0		52.5		7.5	



◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学究 型の高校	柔軟な学びを 可能とする 高校	中学校 卒業者数 3,519人
割 合 (%)	30	0	15	45	10	募集学級計 66
	45			45	10	

【参考】

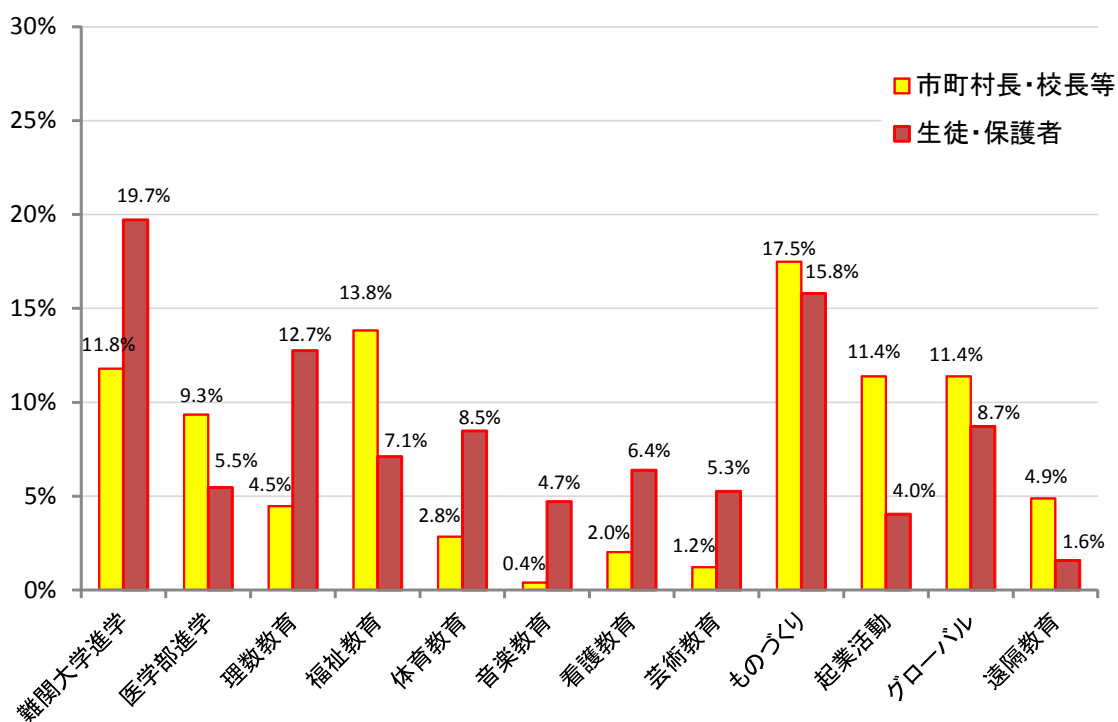
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】

以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。(ひとつだけ)

【選択肢】

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1 難関大学進学重視型 | 2 医学部進学重視型 | 3 理数教育重視型 |
| 4 福祉教育重視型 | 5 体育教育重視型 | 6 音楽教育重視型 |
| 7 看護教育重視型 | 8 芸術教育重視型 | 9 ものづくり重視型 |
| 10 起業活動重視型 | 11 グローバル教育重視型 | 12 遠隔教育型 |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

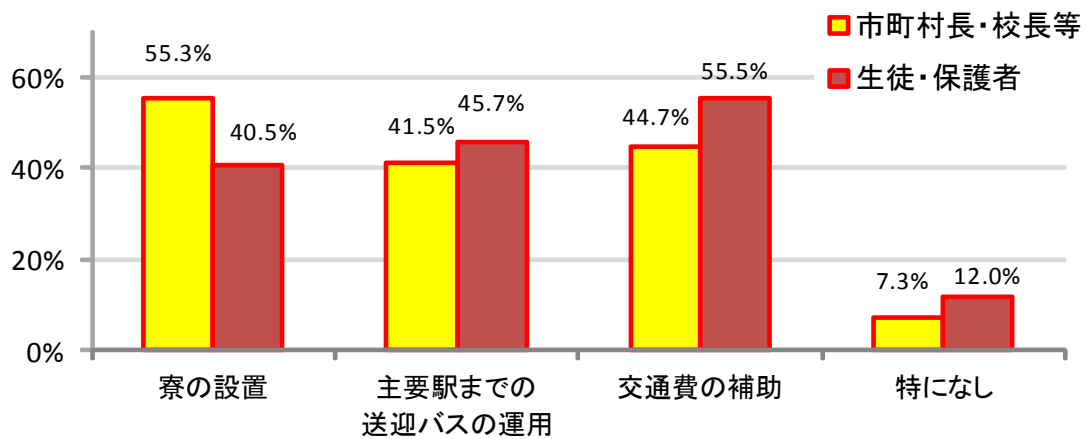
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

【質問2】

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

【選択肢】

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 寮の設置 | 2 主要駅までの送迎バスの運用 |
| 3 交通費の補助 | 4 特になし |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

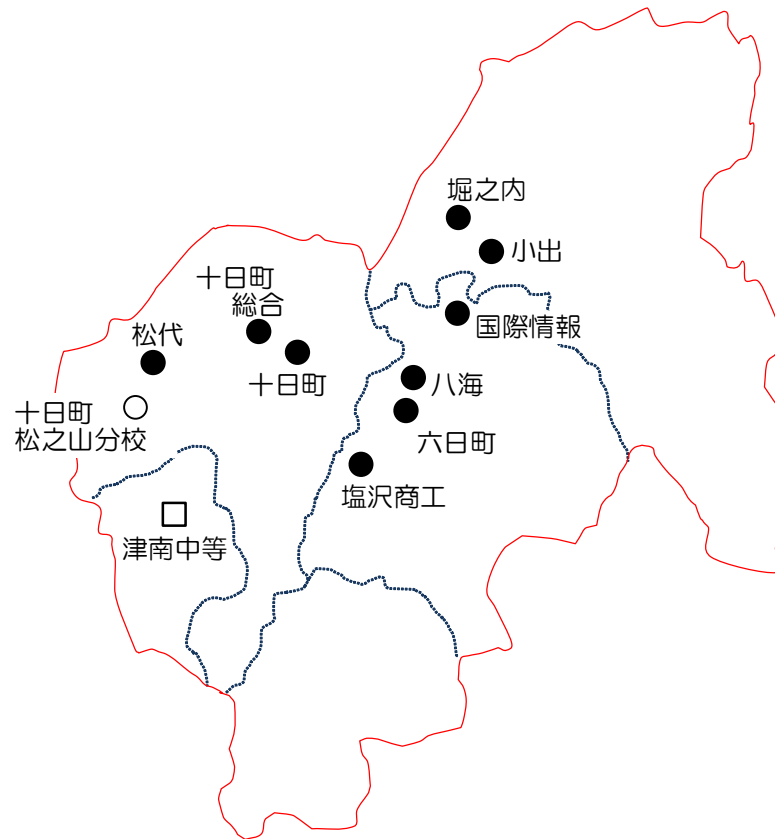
生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

エリア④

＜十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町＞

◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km ²)	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
十日町市	55,698	590.39	12.4%	31.3%	55.1%	絹織物、そば
魚沼市	37,805	946.93	10.9%	33.3%	54.5%	食料品、清酒、電子部品・デバイス、はん用機械
南魚沼市	59,429	584.55	12.0%	29.6%	58.3%	自動車部品、産業用機械、清酒、織物
湯沢町	8,264	357.00	4.7%	13.8%	80.9%	清酒
津南町	10,197	170.21	27.4%	23.2%	49.3%	木材、木製品、電気機械器具、窯業、土石製品、食料品
エリア計 (対県割合)	171,393 (7.4%)	2649.08 (21.0%)	12.5%	29.8%	56.9%	

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「難関大学進学重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)と思った高校」が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	
平成31年度 └ 平成34年度	・普通科系の高校を統合し、「総合選択制の高校」を設置する。 ・普通科系の高校を「柔軟な学びを可能とする高校」に改組する。
平成35年度 └ 平成39年度	・普通科系の高校を「総合選択制の高校」に改組する。
検討事項	・地域と連携した特色ある高校を検討する。 ・専門学科系の高校の改組を検討する。

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科等 (学級数)	専門学科系 (5)	総合学科 (5)	普通科系 (26)	中高一貫 教育校 (2)	定時制 通信制 (4)	中学校 卒業生数 1,567人
割 合 (%)	11.9	11.9	61.9	4.8	9.5	募集学級計 42
	23.8		66.7		9.5	

◆ 平成39年春のすがた



高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学究 型の高校	柔軟な学びを 可能とする 高校	中学校 卒業生数 1,230人
割 合 (%)	0	15	35	45	5	募集学級計 32
	50			45	5	

【参考】

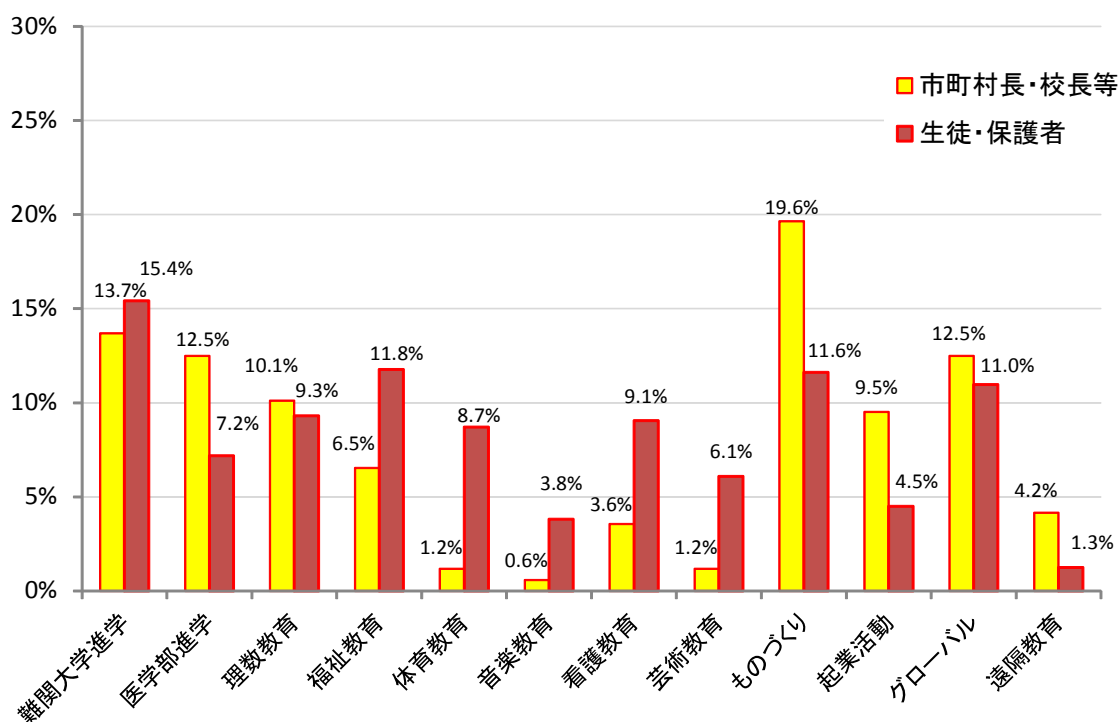
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】

以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。
(ひとつだけ)

【選択肢】

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1 難関大学進学重視型 | 2 医学部進学重視型 | 3 理数教育重視型 |
| 4 福祉教育重視型 | 5 体育教育重視型 | 6 音楽教育重視型 |
| 7 看護教育重視型 | 8 芸術教育重視型 | 9 ものづくり重視型 |
| 10 起業活動重視型 | 11 グローバル教育重視型 | 12 遠隔教育型 |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

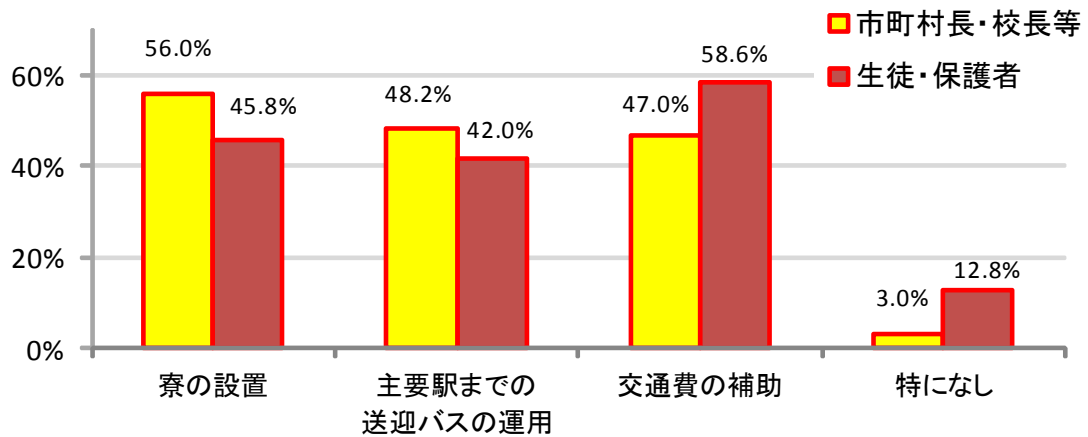
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

【質問2】

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

【選択肢】

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 寮の設置 | 2 主要駅までの送迎バスの運用 |
| 3 交通費の補助 | 4 特になし |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

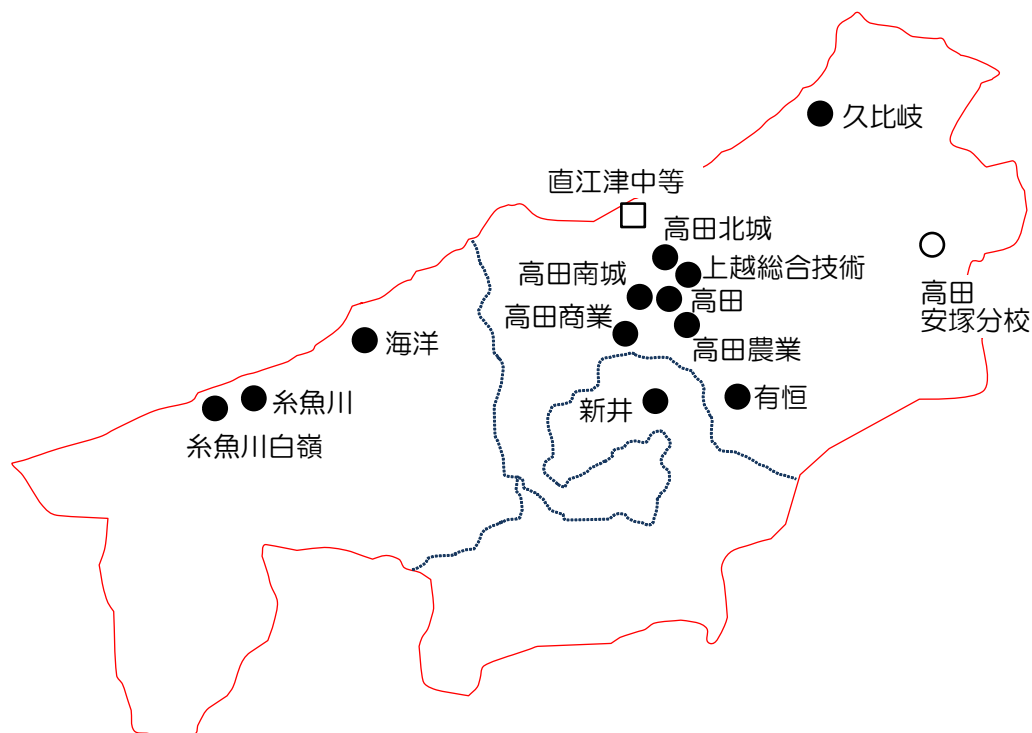
生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

エリア⑤

＜糸魚川市、妙高市、上越市＞

◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km ²)	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
糸魚川市	45,140	746.24	6.4%	37.6%	56.0%	化学工業製品、窯業製品、電気機械器具
妙高市	33,588	445.52	7.2%	32.7%	57.9%	電子部品、酒、化学工業製品、 石油ファンヒーター、エアコン
上越市	197,708	973.61	5.3%	29.9%	62.0%	化学製品、非鉄金属、鉄鋼、プラスチック製品、 金属製品、一般機械器具、電子部品、日本酒、味噌
エリア計 (対県割合)	276,436 (11.9%)	2165.37 (17.2%)	5.7%	31.5%	60.5%	

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)と思った高校」が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	・上越総合技術高校の学科を改編する。
平成31年度 ↓ 平成34年度	・普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、「総合選択制の高校」を設置する。
平成35年度 ↓ 平成39年度	・専門学科系の高校を統合し、「学科総合型の産業高校」を設置する。
検討事項	・地域と連携した特色ある高校を検討する。 ・医療専攻の設置を検討する。

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科等 (学級数)	専門学科系 (17)	総合学科 (7)	普通科系 (24)	中高一貫 教育校 (3)	定時制 通信制 (2)	中学校 卒業生数 2,671人
割 合 (%)	32.1	13.1	45.3	5.7	3.8	募集学級計
	45.2		51.0		3.8	53



◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学究 型の高校	柔軟な学びを 可能とする 高校	中学校 卒業生数 2,083人
割 合 (%)	15	20	20	40	5	募集学級計
	55			40	5	40

【参考】

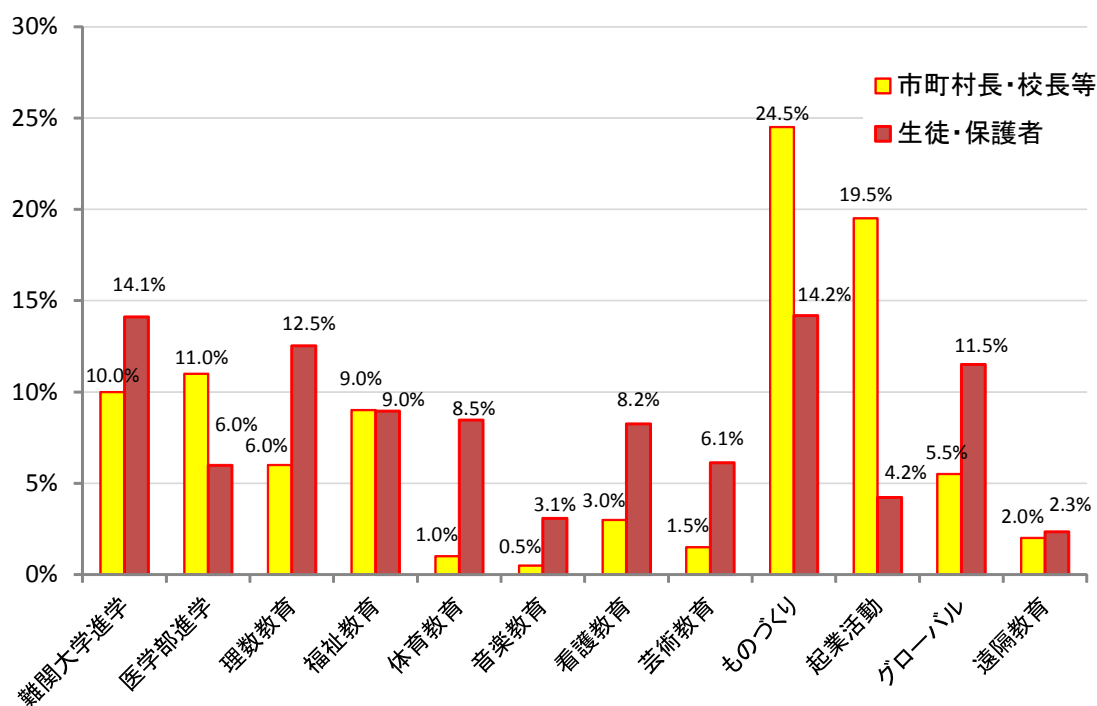
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】

以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。(ひとつだけ)

【選択肢】

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1 難関大学進学重視型 | 2 医学部進学重視型 | 3 理数教育重視型 |
| 4 福祉教育重視型 | 5 体育教育重視型 | 6 音楽教育重視型 |
| 7 看護教育重視型 | 8 芸術教育重視型 | 9 ものづくり重視型 |
| 10 起業活動重視型 | 11 グローバル教育重視型 | 12 遠隔教育型 |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

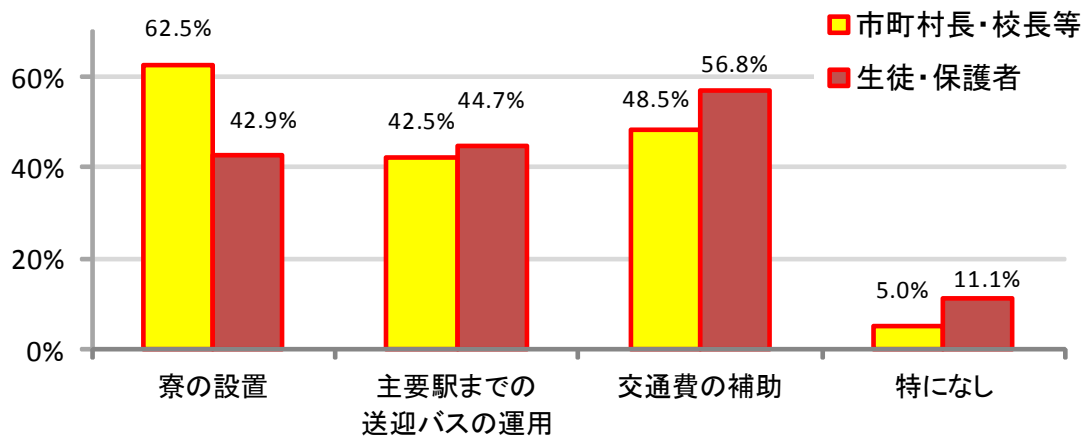
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

【質問２】

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

【選択肢】

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 寮の設置 | 2 主要駅までの送迎バスの運用 |
| 3 交通費の補助 | 4 特になし |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

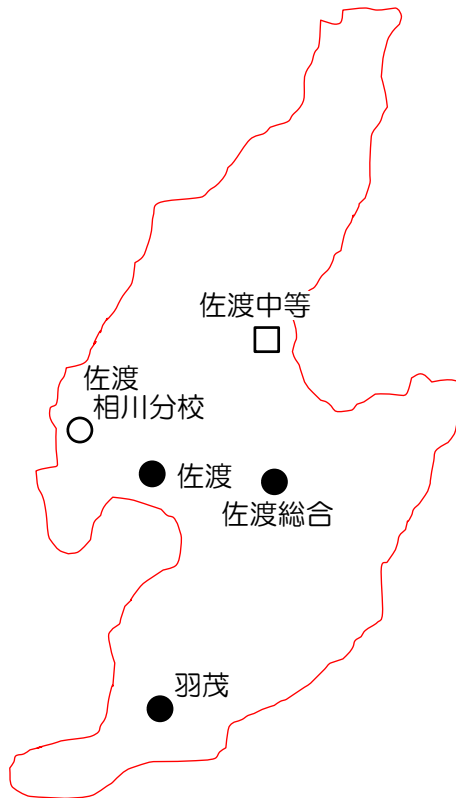
生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

エリア⑥

<佐渡市>

◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km ²)	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
佐渡市 (対県割合)	58,221 (2.5%)	855.34 (6.8%)	21.9%	18.6%	58.5%	海産物、地酒、無名異焼、竹細工、裂織

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「起業活動重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「難関大学進学重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)と思った高校」が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	
平成31年度 ┆ 平成34年度	
平成35年度 ┆ 平成39年度	・普通科系の高校を統合し、「大学進学を重視した学究型の高校」を設置する。
検討事項	・地域と連携した特色ある高校を検討する。 ・医療専攻の設置を検討する。 ・文化芸術系コースの設置を検討する。

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科等 (学級数)	専門学科系 (0)	総合学科 (3)	普通科系 (7)	中高一貫 教育校 (2)	定時制 通信制 (1)	中学校 卒業者数 489人
割 合 (%)	0.0	23.1	53.8	15.4	7.7	募集学級計 13
	23.1		69.2		7.7	

◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学究 型の高校	柔軟な学びを 可能とする 高校	中学校 卒業者数 398人
割 合 (%)	0	0	45	45	10	募集学級計 11
	45			45	10	

【参考】

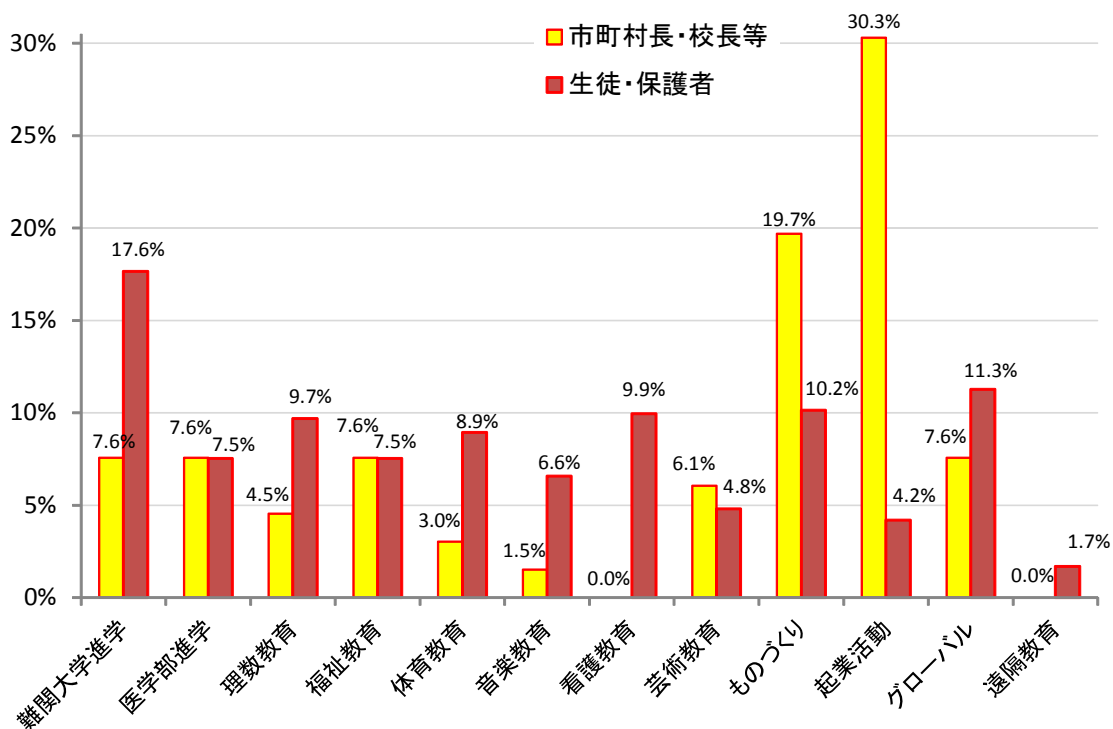
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】

以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。(ひとつだけ)

【選択肢】

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1 難関大学進学重視型 | 2 医学部進学重視型 | 3 理数教育重視型 |
| 4 福祉教育重視型 | 5 体育教育重視型 | 6 音楽教育重視型 |
| 7 看護教育重視型 | 8 芸術教育重視型 | 9 ものづくり重視型 |
| 10 起業活動重視型 | 11 グローバル教育重視型 | 12 遠隔教育型 |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

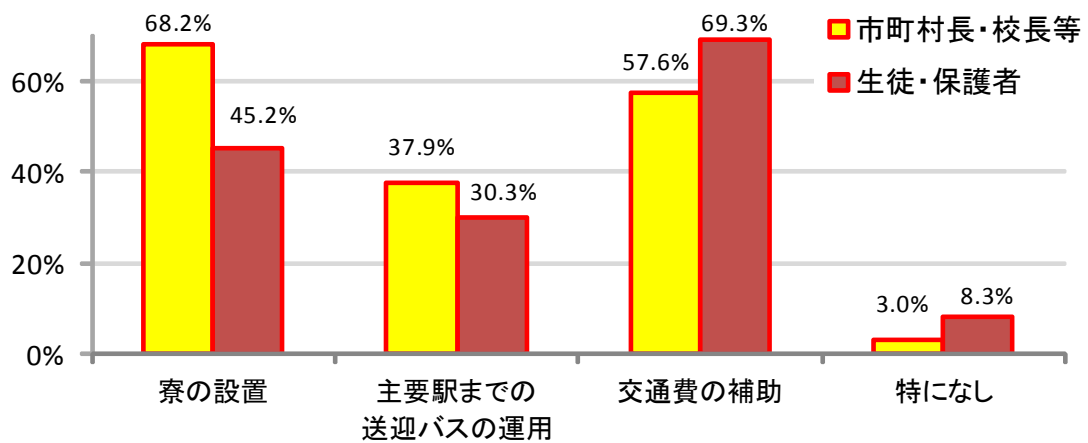
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

【質問2】

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

【選択肢】

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 寮の設置 | 2 主要駅までの送迎バスの運用 |
| 3 交通費の補助 | 4 特になし |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

V 再編整備の概要【平成30年度～平成39年度】

エリア	年度	H30	H31	H32
①	中卒者見込み	2,154	2,131	2,077
	前年差	-165	-23	-54
	計画	○ 西新発田高校を「柔軟な学びを可能とする高校」に改組する。 ○ 新発田南高校豊浦分校を募集停止とする。	メディカルコースを設置	普通科系の高校を「総合選択制の高校」に改組
②	中卒者見込み	9,397	9,508	9,186
	前年差	-575	111	-322
	計画	○ 阿賀黎明中学校を募集停止とする。	普通科系の高校を統合し、 普通科系の高校を「柔軟な学びとともに、通信制課程を設置	
③	中卒者見込み	4,011	3,958	3,835
	前年差	-110	-53	-123
	計画			
④	中卒者見込み	1,443	1,388	1,468
	前年差	-127	-55	80
	計画			
⑤	中卒者見込み	2,387	2,467	2,379
	前年差	-290	80	-88
	計画	○ 上越総合技術高校の学科を改編する。	普通科系の高校と総合学科の「総合選択制の高校」を設置	
⑥	中卒者見込み	439	412	396
	前年差	-41	-27	-16
	計画			
全県	中卒者見込み	19,831	19,864	19,341
	前年差	-1,308	33	-523

① 新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村

② 新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町

③ 長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村 ④ 十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町

⑤ 糸魚川市、妙高市、上越市 ⑥ 佐渡市

H33	H34	H35	～	H39
2,031	2,054			1,944 (38学級)
-46	23			H34との差 -110
		普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、 「総合選択制の高校」を設置		
		専門学科系の高校を統合し、 「学科総合型の産業高校」を設置		
8,970	9,031			8,616 (143学級)
-216	61			H34との差 -415
「総合選択制の高校」を設置		普通科系の高校を統合し、「総合選択制の高校」を設置		
を可能とする高校」に改組する		普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、 「総合選択制の高校」を設置		
	メディカルコースを設置			
普通科系の高校と専門学科系の高校を統合し、 「専門分野を探究する高校」を設置		専門学科系の高校を統合し、 「学科総合型の産業高校」を設置		
3,597	3,846			3,519 (66学級)
-238	249			H34との差 -327
	普通科系の高校を統合し、 「大学進学を重視した学究型の高校」を設置			
		普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、 「総合選択制の高校」を設置		
1,346	1,403			1,230 (32学級)
-122	57			H34との差 -173
普通科系の高校を統合し、「総合選択制の高校」を設置				
		普通科系の高校を「総合選択制の高校」に改組		
普通科系の高校を「柔軟な学びを可能とする高校」に改組				
2,265	2,344			2,083 (40学級)
-114	79			H34との差 -261
普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、 「総合選択制の高校」を設置				
高校を統合し、		専門学科系の高校を統合し、 「学科総合型の産業高校」を設置		
379	432			398 (11学級)
-17	53			H34との差 -34
		普通科系の高校を統合し、 「大学進学を重視した学究型の高校」を設置		
18,588	19,110			17,790 (330学級)
-753	522			H34との差 -1,320

Ⅵ 平成30年度県立高等学校、県立中学校、県立中等教育学校の募集学級数の見込み

■ 全日制課程

学 校 名	学 科	募集学級数			募集学級数の見込み	
		H26	H27	H28	H29	H30
村上	普 通	5	5	5	4	4
村上桜ヶ丘	総 合	5	4	4	4	4
中条	普 通	5	4	4	4	3
新発田	普 通	7	6	6	6	6
	理 数	1	1	1	1	1
西新発田	普 通	4	4	4	4	改組
新発田南	普 通	4	4	4	4	4
	機械工学	1	1	1	1	1
	建築工学	1	1	1	1	1
	土木工学	1	1	1	1	1
	電子情報工学	1	1	1	1	1
新発田農業	生物資源	2	2	2	2	2
	食品科学	1	1	1	1	1
	環境科学	2	1	1	1	1
新発田商業	商 業	5	4	4	4	3
	情報処理	1	1	1	1	1
阿賀野	普 通	4	4	3	3	3
阿賀黎明	普 通	2	2	2	2	2
五泉	総 合	6	6	6	6	5
村松	普 通	3	3	3	3	3
新津	普 通	7	7	7	7	7
新津工業	工業マイスター	1	1	1	1	1
	生産工学	2	1	1	1	1
	ロボット工学	1	1	1	1	1
	日本建築	1	1	1	1	1
新津南	普 通	5	5	5	5	4
豊栄	普 通	5	4	4	4	3
新潟北	普 通	8	8	7	7	6
新潟東	普 通	8	8	8	8	7
新潟	普 通	7	7	7	7	7
	理 数	2	2	2	2	2
新潟中央	普 通	6	6	6	6	5
	普通(学究コース)	2	2	2	2	2
	食 物	1	1	1	1	1
	音 楽	1	1	1	1	1
新潟南	普 通	8	8	8	8	7
	普通(理数コース)	1	1	1	1	1
新潟江南	普 通	8	8	8	8	8
新潟商業	総合ビジネス	5	5	5	5	5
	情報処理	2	2	2	2	2
	国際教養	2	2	2	2	2
新潟向陽	普 通	8	7	7	7	6
白根	普 通	3	3	2	2	2
新潟西	普 通	6	6	6	6	6
	普通(学励コース)	2	2	2	2	2

学 校 名	学 科	募集学級数			募集学級数の見込み	
		H26	H27	H28	H29	H30
新潟工業	機 械	2	2	2	2	2
	電 気	2	2	2	2	2
	建築(建築コース)	1	1	1	1	1
	建築(建築設備コース)	1	1	1	1	1
	土 木	1	1	1	1	1
	工業化学	1	1	1	1	1
巻	普 通	8	8	8	8	7
巻総合	総 合	6	6	5	5	5
西川竹園	普 通	*				
	生活文化	*				
吉田	普 通	5	5	4	4	3
分水	普 通	3	3	2	2	2
三条	普 通	7	7	7	7	6
三条東	普 通	7	7	7	7	6
新潟県央工業	機械加工	2	2	1	1	1
	電子機械	1	1	1	1	1
	情報電子	1	1	1	1	1
	建設工学	1	1	1	1	1
三条商業	総合ビジネス	5	5	5	5	4
加茂	普 通	5	5	5	5	4
加茂農林	生産技術	3	3	2	2	2
	環境緑地	1	1	1	1	1
	食品技術	1	1	1	1	1
	生物工学	1	1	1	1	1
見附	普 通	4	4	4	4	3
長岡	普 通	6	6	6	6	6
	理 数	2	2	2	2	2
長岡大手	普 通	6	6	6	6	6
	家 政	1	1	1	1	1
長岡向陵	普 通	7	7	6	6	6
長岡農業	生産技術	2	2	2	2	2
	食品科学	1	1	1	1	1
	生活環境	1	1	1	1	1
長岡工業	機械工学	2	2	2	2	2
	電気電子工学	2	2	2	2	2
	物質工学	1	1	1	1	1
	産業デザイン	1	1	1	1	1
長岡商業	総合ビジネス	5	5	5	5	4
	情報ビジネス	1	1	1	1	1
正徳館	普 通	2	2	1	1	1
栃尾	総 合	3	3	3	3	3
小千谷	普 通	6	6	6	6	5
小千谷西	総 合	4	4	4	4	4
小出	普 通	4	4	4	4	3
国際情報	国際文化	2	2	2	2	2
	情報科学	2	2	2	2	2
六日町	普 通	6	6	6	6	5
八海	普 通	1	1	1	1	1
	家庭福祉	1	1	1	1	1
	体 育	1	1	1	1	1

学 校 名	学 科	募集学級数			募集学級数の見込み	
		H26	H27	H28	H29	H30
塩沢商工	機械システム	2	2	2	2	2
	商 業	2	2	2	2	2
十日町	普 通	7	7	7	7	6
松之山分校	普 通		1	1	1	1
十日町総合	総 合	4	4	5	5	5
川西	普 通	2	2	*		
松代	普 通	2	2	2	2	2
柏崎	普 通	4	4	4	4	4
	普通(理数コース)	1	1	1	1	1
柏崎常盤	普 通	4	4	4	4	3
柏崎総合	総 合	4	4	4	4	4
柏崎工業	機 械	1	1	1	1	1
	電子機械	1	1	1	1	1
	電 気	1	1	1	1	1
	工業化学	1	1	1	1	1
久比岐	普 通	3	3	3	3	2
安塚	普 通	1	*			
松之山分校	普 通	1	*			
高田	普 通	6	6	6	6	5
	理 数	1	1	1	1	1
安塚分校	普通		1	1	1	1
高田北城	普 通	6	6	6	6	5
	生活文化	1	1	1	1	1
高田農業	生物資源	2	2	2	2	2
	食品科学	1	1	1	1	1
	農業土木	1	1	1	1	1
上越総合技術	機械工学	1	1	1	1	*
	メカトロニクス	1	1	1	1	*
	電子情報	1	1	1	1	*
	電気工学	1	1	1	1	*
	建築・デザイン	1	1	1	1	*
	環境土木	1	1	1	1	*
	工業科					学科改編 5
高田商業	総合ビジネス	4	4	4	4	3
有恒	普 通	2	2	2	2	2
新井	総 合	4	4	4	4	4
糸魚川	普 通	5	5	5	5	5
糸魚川白嶺	総 合	4	4	3	3	3
海洋	海洋科学	1	*			
	食品科学	1	*			
	海洋工学	1	*			
	水産資源		1	1	1	1
	海洋開発		1	1	1	1
佐渡	普 通	5	5	5	5	5
羽茂	普 通	2	2	2	2	2
相川	普 通	*				
佐渡総合	総 合	4	4	3	3	3

■ 定時制課程

学 校 名	学 科	募集学級数			募集学級数の見込み	
		H26	H27	H28	H29	H30
西新発田	普通(午前部)					3
荒川	普通(午前部)	3	2	2	2	2
新発田南豊浦分校	普通(午前部)	1	1	1	1	*
新潟翠江	普通(午前部)	2	2	2	2	2
	普通(午後部)	1	1	*		
長岡明德	普通(午前部)	3	3	3	3	3
	普通(夜間部)	1	1	1	1	1
堀之内	普通(午前部)	2	2	2	3	3
	普通(午後部)	1	1	1	*	
十日町	普 通	1	1	1	1	1
出雲崎	普通(午前部)	2	2	2	2	2
高田南城	普通(午前部)	2	2	2	2	2
	普通(夜間部)	*				
佐渡相川分校	普通(午前部)	1	1	1	1	1

■ 中学校

学 校 名	募集学級数			募集学級数の見込み	
	H26	H27	H28	H29	H30
阿賀黎明	1	1	1	1	*

■ 中等教育学校

学 校 名	課 程	募集学級数			募集学級数の見込み	
		H26	H27	H28	H29	H30
村上	前期課程	2	2	2	2	2
柏崎翔洋	前期課程	2	2	2	2	2
燕	前期課程	2	2	2	2	2
津南	前期課程	2	2	2	2	2
直江津	前期課程	3	3	3	3	3
佐渡	前期課程	2	2	2	2	2

【注】

◆H26、H27、H28の募集学級数は確定したものです。

◆H29、H30の募集学級数については、現段階の見込みであり、毎年度の募集学級数及び募集定員は、最新の学校基本調査のデータなども踏まえ、募集年度前年の10月末に決定します。

◆*印は募集停止を表しています。

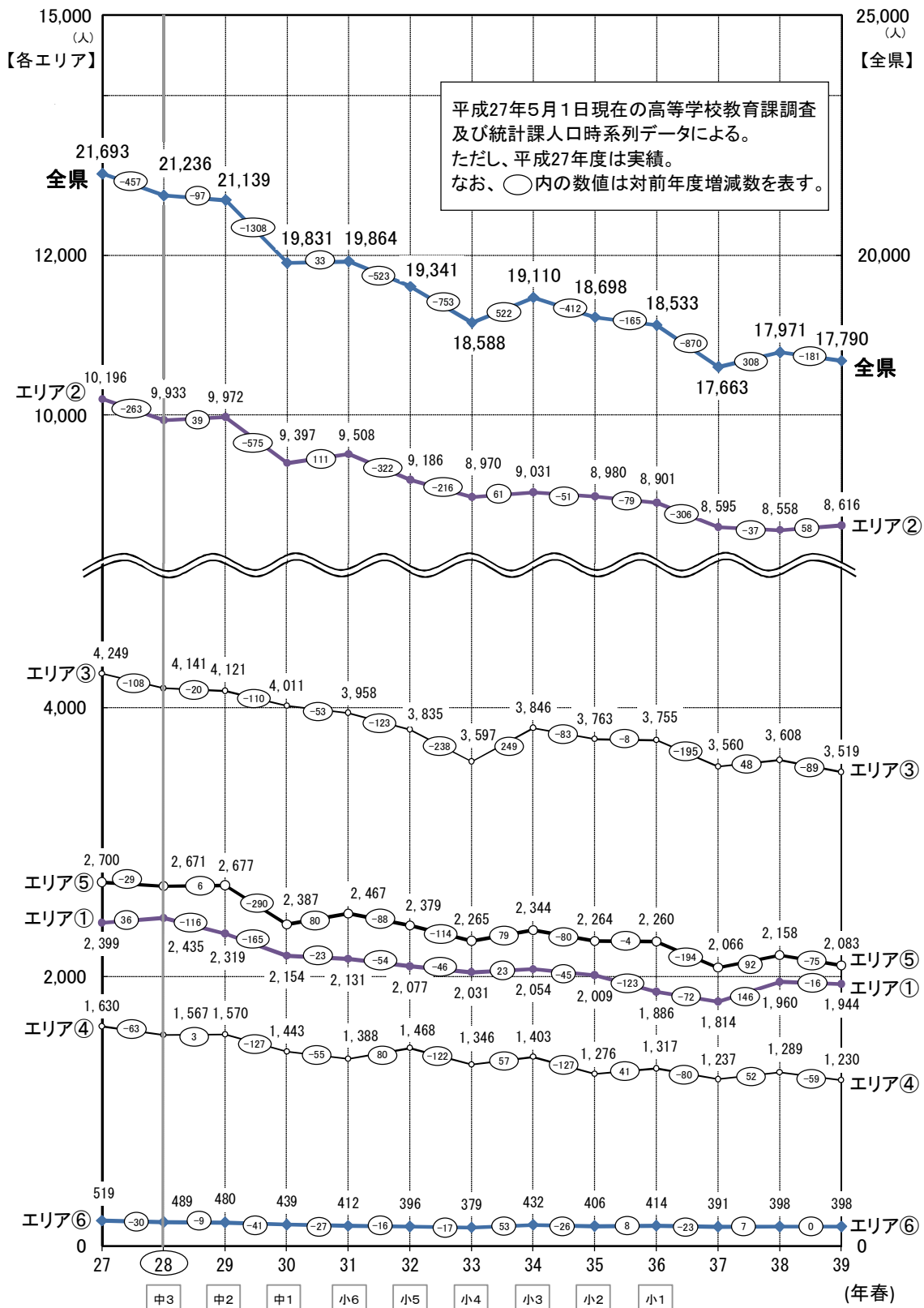
【参考】新潟市立高校等

学 校 名	学 科 等	募集学級数			募集学級数の見込み	
		H26	H27	H28	H29	H30
万代	普 通	5	5	5	5	5
	英語理数	1	1	1	1	1
明鏡	普通(午前部)	3	3	3	3	3
	普通(夜間部)	1	1	1	1	1
高志中等教育	前期課程	3	3	3	3	3

【資料編】

I	中学校卒業者数の見込み【平成27年～平成39年】	45
II	中学校卒業者数と学校数の推移	46
III	「高等学校に関する調査」結果(抜粋)	47
IV	高校等再編整備計画策定外部有識者会議	55
V	地域別説明会	62
VI	パブリックコメント	65

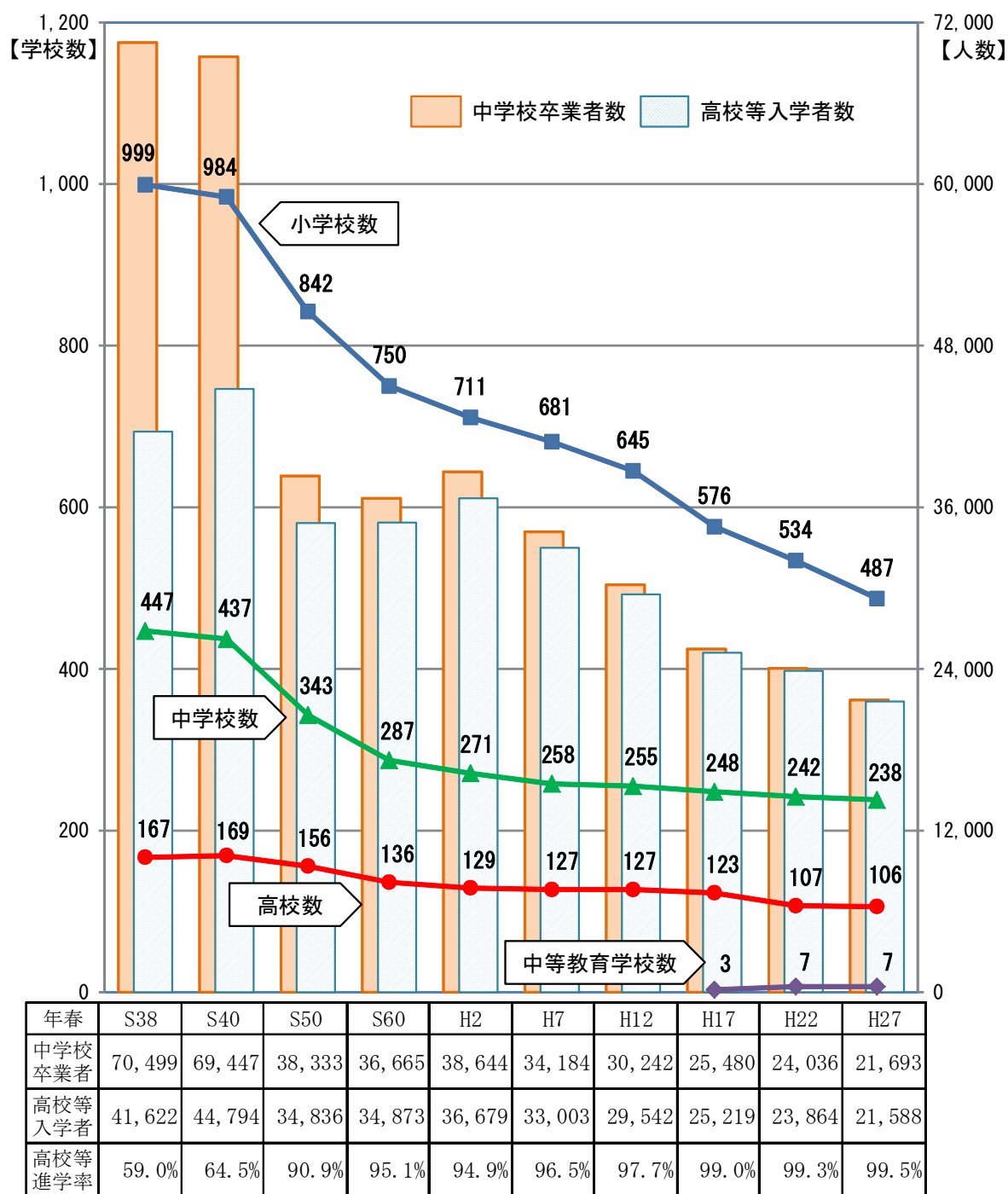
I 中学校卒業生数の見込み【平成27年～平成39年】



市町村一覧

エリア名	市町村名
エリア①	新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村
エリア②	新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町
エリア③	長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村
エリア④	十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町
エリア⑤	糸魚川市、妙高市、上越市
エリア⑥	佐渡市

Ⅱ 中学校卒業生数と学校数の推移



※ 数値は「学校基本調査報告書」による。

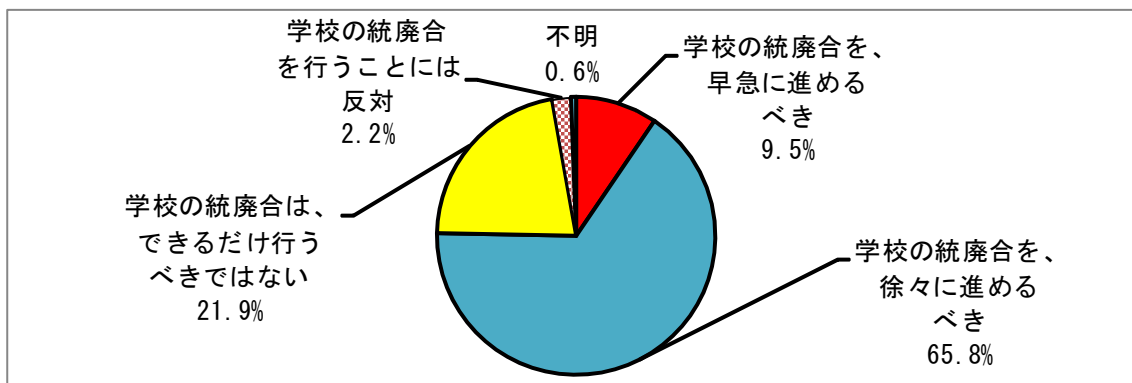
※ 学校数は公立(分校を含む)のほか国立、私立を含む。

※ 中学校卒業生数は中等教育学校前期課程修了者を含み、
高校等入学者数は中等教育学校後期課程進学者を含む。

Ⅲ 「高等学校に関する調査」結果(抜粋)

Q あなたは、次のことについて、どのように考えますか。
(市町村長・教育長・校長・PTA会長)

今後少子化が進展する中、高校数を現状のままとすれば、多くの学校が「小規模校」となります。その場合、進路希望等に応じた選択科目の開設や、学校行事および部活動などに影響し、学校の活力や教育力の低下が予想されます。



○ 「学校の統廃合を進める」ことに75.3%が、賛成している。

Q 前問のように考えた理由を、教えてください。
(市町村長・教育長・校長・PTA会長)

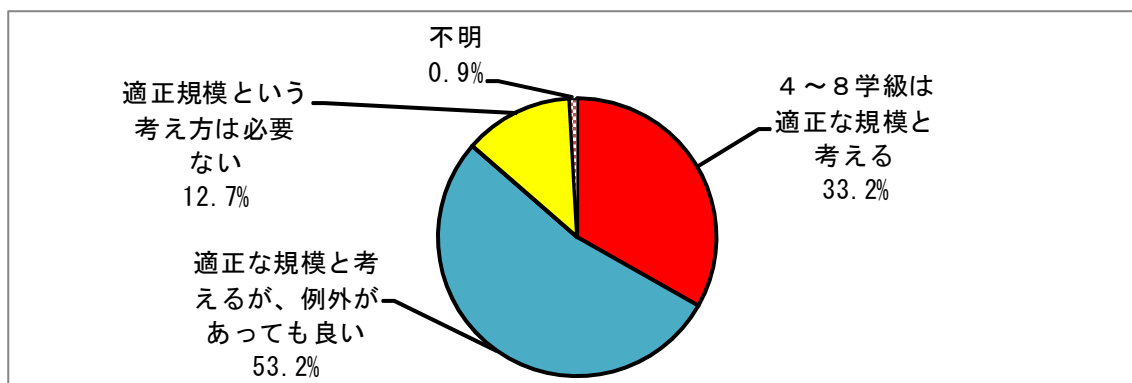
【統廃合に賛成している主な理由】

- ◇ 生徒同士が切磋琢磨することにより、学校の活力を維持できる。
- ◇ 学校の小規模化による教育力・活力の低下や生徒間で競争する場面が減少することを懸念する。
- ◇ 小規模校では生徒の人間関係は固定化してしまう。
- ◇ 高校はある程度の規模を維持しなければ一定の水準を保てない。ただし、段階的に進めるべきである。

【統廃合に反対する主な理由】

- ◇ 学校の統廃合により地域の活力が失われる。
- ◇ 遠距離の通学による家庭の経済的負担が増加することを懸念する。

Q これまで県教育委員会では、高校の適正規模を4～8学級と考えてきました。このことについて、どのように思いますか。
(市町村長・教育長・校長・PTA会長)



○ 例外を認めつつも、86.4%が4～8学級を適正規模と考えている。

Q 適正規模に満たない高校が存続する場合は、どのような条件が必要であると考えますか。あなたのお考えをお聞かせください。
(市町村長・教育長・校長・PTA会長)

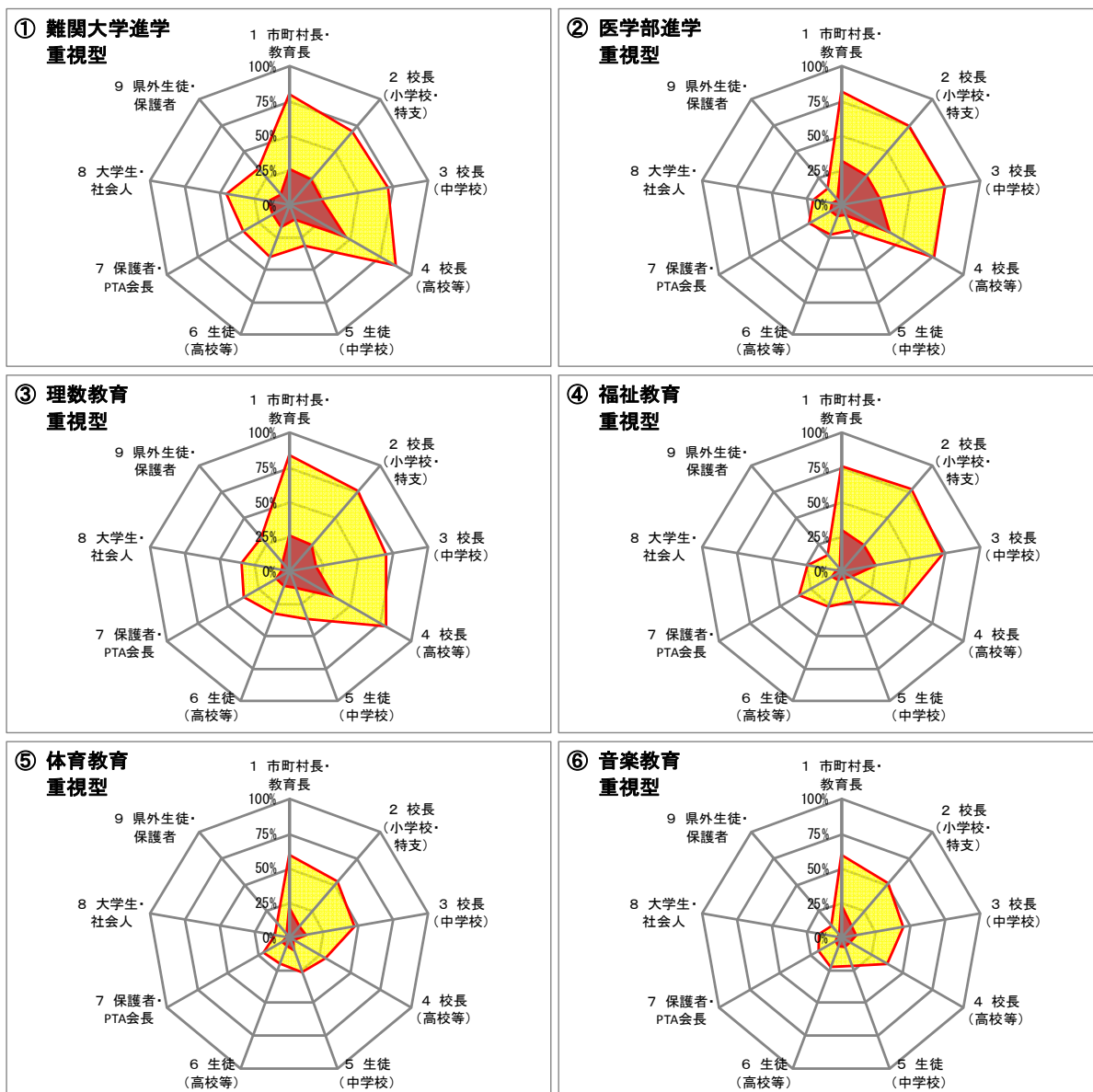
【適正規模に満たない学校についての主な意見】

- ◇ 学校が立地している地域の状況、通学の利便性を考慮する必要がある。
- ◇ 小規模ならではの教育が行われている場合や地域との連携が図られ実績がある場合には、存続を検討する。

Q あなたは、以下のような高校についてどのように感じますか。(全対象者)

- 1 とても魅力的 2 まあ魅力的 3 どちらともいえない
4 あまり魅力的でない 5 まったく魅力的でない

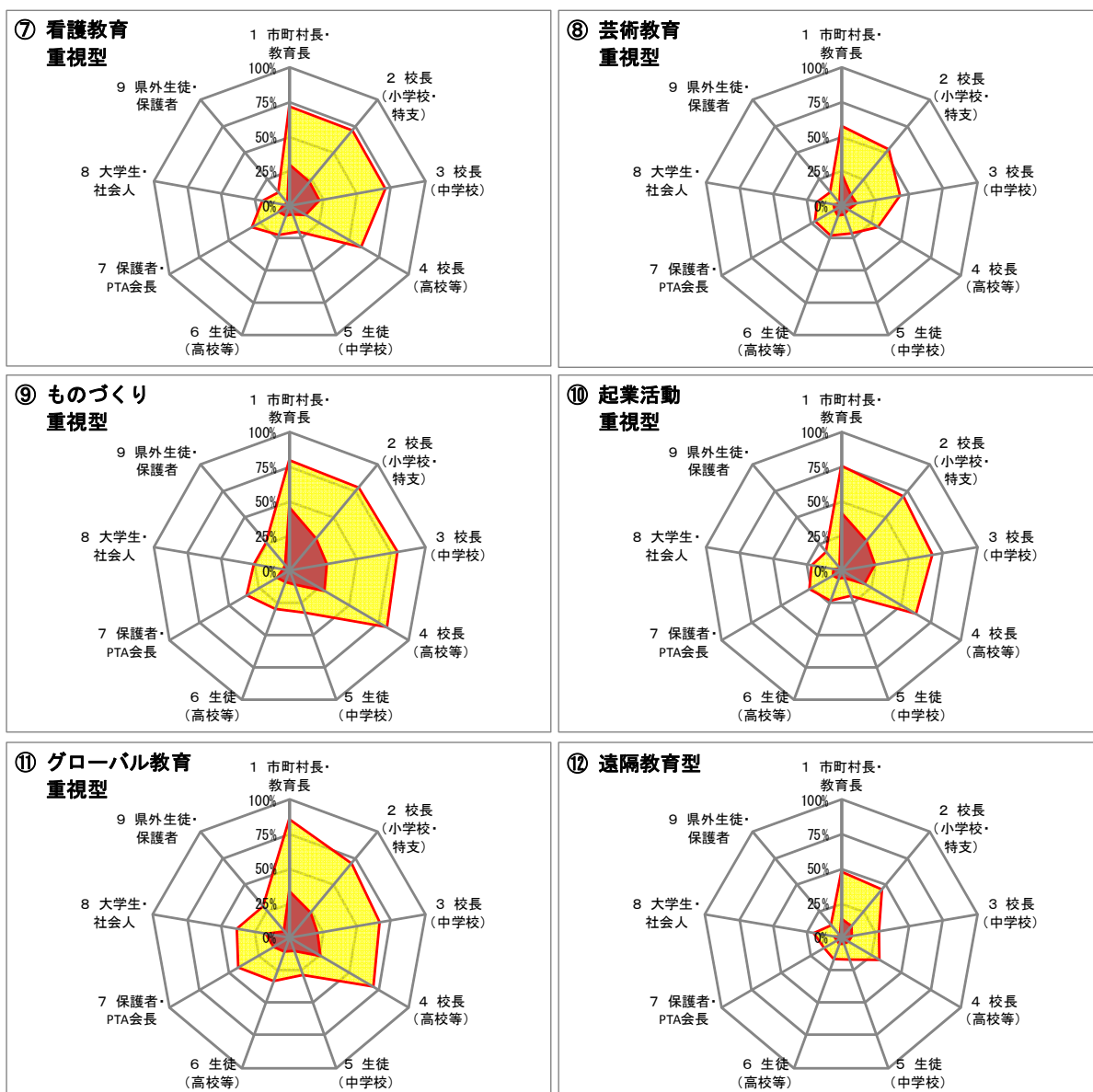
■ とても魅力的 ■ とても魅力的+まあ魅力的



「とても魅力的」の割合

役職等	① 難関大学	② 医学部進学	③ 理数教育	④ 福祉教育	⑤ 体育教育	⑥ 音楽教育
1 市町村長・教育長	26.0%	32.0%	26.0%	30.0%	22.0%	24.0%
2 校長(小学校・特支)	24.1%	3 27.8%	24.8%	24.8%	11.1%	11.3%
3 校長(中学校)	23.3%	1 27.7%	19.4%	3 24.8%	12.1%	10.7%
4 校長(高校等)	1 46.6%	2 39.8%	3 36.4%	8.0%	3.4%	6.8%
5 生徒(中学校)	2 11.3%	7.8%	1 12.7%	5.4%	9.4%	6.9%
6 生徒(高校等)	1 17.0%	8.6%	2 11.2%	6.8%	5.8%	6.3%
7 保護者・PTA会長	1 13.5%	8.8%	3 10.6%	7.7%	5.7%	4.6%
8 大学生・社会人	2 15.1%	3 6.8%	5.2%	3.6%	2.1%	3.1%
9 県外生徒・保護者	1 9.6%	4.4%	2 7.6%	1.8%	3.1%	2.4%

- 「とても魅力的」の回答は「難関大学進学」、「ものづくり」、「医学部進学」が高く、「とても魅力的+まあ魅力的」の回答は「難関大学進学」、「理数教育」、「ものづくり」が高かった。
- 市町村長等は「ものづくり」や「起業活動」が高かった。



役職等	⑦ 看護教育重視型	⑧ 芸術教育重視型	⑨ ものづくり重視型	⑩ 起業活動重視型	⑪ グローバル教育重視型	⑫ 遠隔教育型
1 市町村長・教育長	30.0%	24.0%	1 46.0%	2 42.0%	3 34.0%	14.0%
2 校長(小学校・特支)	22.7%	10.6%	1 30.3%	2 28.2%	24.1%	11.3%
3 校長(中学校)	22.3%	11.2%	1 27.7%	3 24.8%	20.9%	7.8%
4 校長(高校等)	13.6%	5.7%	29.5%	19.3%	26.1%	5.7%
5 生徒(中学校)	6.8%	6.6%	3 10.7%	5.6%	10.0%	4.5%
6 生徒(高校等)	7.7%	7.5%	8.8%	6.1%	3 10.5%	4.6%
7 保護者・PTA会長	8.9%	5.6%	10.2%	7.1%	2 13.0%	3.6%
8 大学生・社会人	4.2%	5.7%	4.7%	5.7%	1 17.2%	5.2%
9 県外生徒・保護者	2.1%	2.3%	4.7%	2.1%	3 6.2%	1.6%

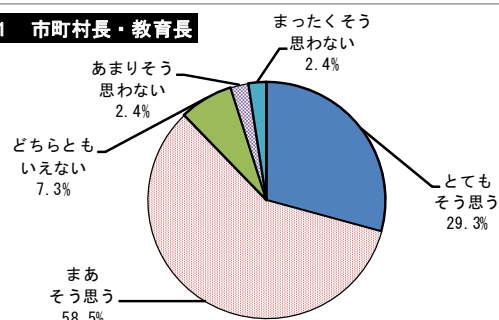
Q 最も魅力があると選んだ学校は、遠くに住んでいる(例：通学に片道 90分かかる)生徒が通学したいと思うような魅力があると思いますか。

(市町村長・教育長・校長・PTA会長)

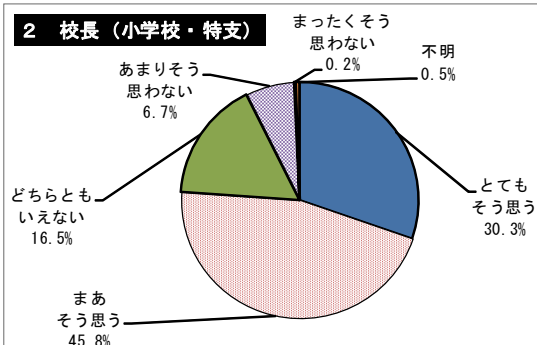
Q 最も魅力があると選んだ学校が、自宅から遠かった場合(例：通学に片道 90分かかる)、通学したい(させたい)気持ちはどのようになりますか。

(県内生徒・保護者・大学生・社会人)

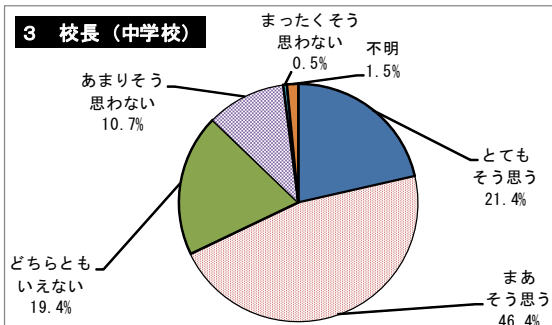
1 市町村長・教育長



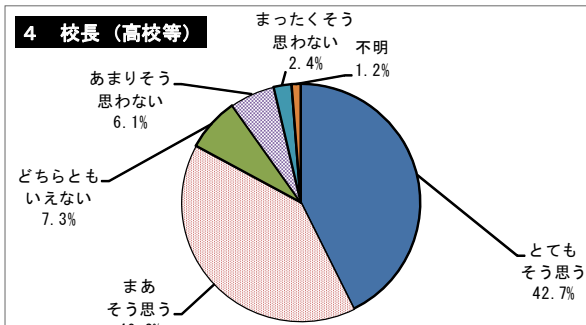
2 校長 (小学校・特支)



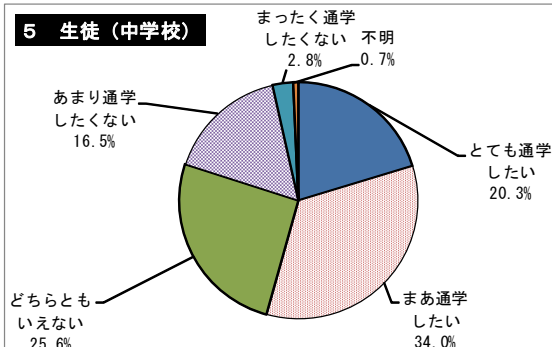
3 校長 (中学校)



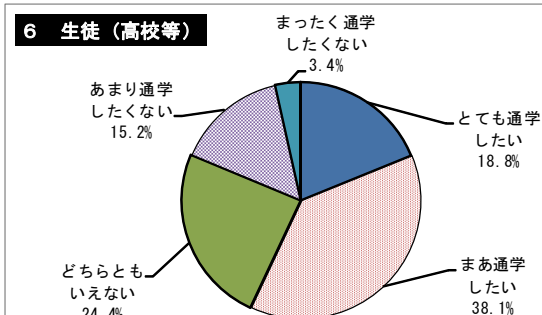
4 校長 (高校等)



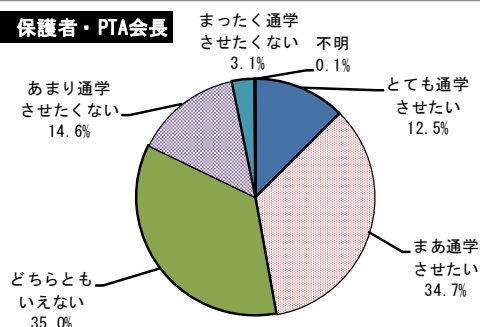
5 生徒 (中学校)



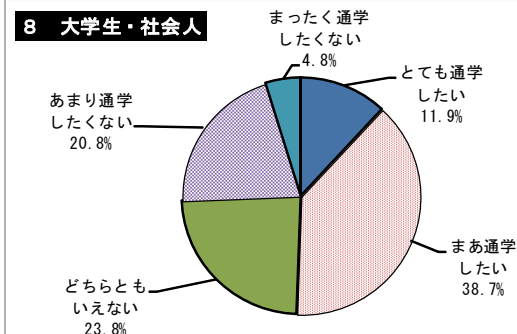
6 生徒 (高校等)



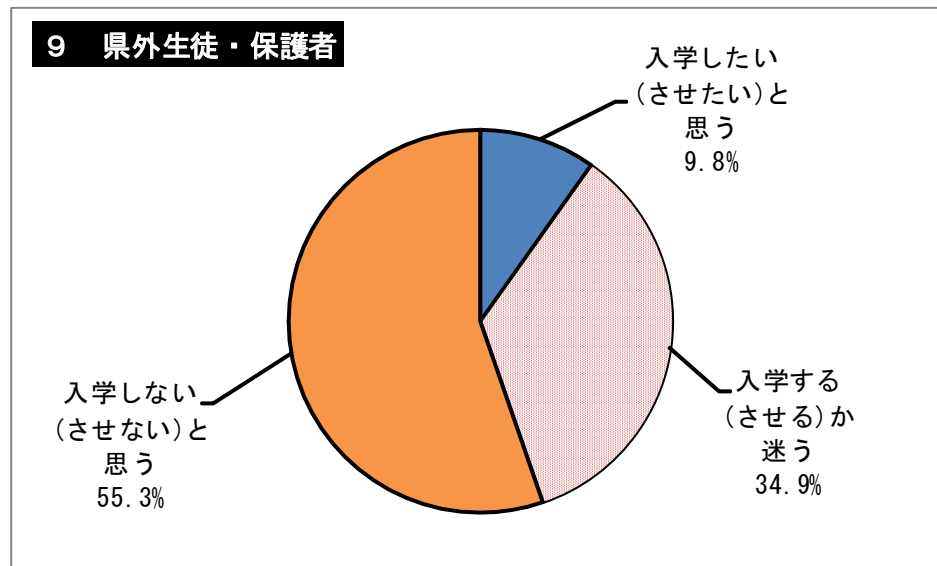
7 保護者・PTA会長



8 大学生・社会人



Q 最も魅力があると選んだ学校が「新潟県」にあった場合、入学したい(させたい)と思いますか。(県外生徒・保護者)



- 市町村長・教育長、高校の校長は、「とてもそう思う」と「まあそう思う」をあわせると80%以上であり、遠方でも魅力がある学校であれば生徒は通学すると考えている。
- 生徒及び保護者は、「とても通学したい(させたい)」と「まあ通学したい(させたい)」をあわせると47%～57%であり、およそ半数が遠方でも魅力ある学校に通学したい、またはさせたいと考えている。
- 県外生徒・保護者は魅力ある学校であれば、およそ10%が入学したい、またはさせたいと考えている。

Q 「生徒が通学したくなる学校」が、生徒の自宅から遠かった場合、地元としてどのような支援が可能であると考えますか。

(市町村長・教育長・校長・PTA会長)

【複数回答可】

役職等	寮の設置	主要駅までの送迎バスの運用	交通費の補助	特になし
1 市町村長・教育長	24.0%	22.0%	18.0%	1 28.0%
2 校長(小学校・特支)	1 55.3%	49.3%	50.0%	5.8%
3 校長(中学校)	49.5%	1 56.3%	38.3%	4.9%
4 校長(高校等)	1 56.8%	55.7%	28.4%	6.8%

※PTA会長の回答は、次のQで保護者の回答とあわせて集計した。

- 市町村長・教育長は「特になし」が最も高く、次いで「寮の設置」が高かった。
- 小学校・特別支援学校の校長は「寮の設置」が最も高く、次いで「交通費の補助」が高かった。
- 中学校の校長は「主要駅までの送迎バスの運用」が最も高く、次いで「寮の設置」が高かった。
- 高校等の校長は「寮の設置」が最も高く、次いで「主要駅までの送迎バスの運用」が高かった。

Q 「通学したい(させたい)と思った高校」が自宅から遠かった場合、または新潟県にあった場合(県外生徒・保護者)、どのような条件があれば通学したい(させたい)気持ちが高まりますか。

(県内生徒・保護者・大学生・社会人・県外生徒・保護者)

【複数回答可】

役職等	寮の設置	主要駅までの送迎バスの運用	交通費の補助	特になし
5 生徒(中学校)	31.3%	47.4%	1 56.8%	13.8%
6 生徒(高校等)	33.1%	43.0%	1 55.4%	13.3%
7 保護者・PTA会長	44.8%	51.3%	1 55.6%	9.3%
8 大学生・社会人	37.5%	1 57.3%	56.8%	16.7%
9 県外生徒・保護者	42.7%	19.2%	26.3%	1 47.5%

- 県内の生徒及び保護者は「交通費の補助」が最も高く、次いで「主要駅までの送迎バスの運用」が高かった。
- 大学生・社会人は「主要駅までの送迎バスの運用」が最も高く、次いで「交通費の補助」が高かった。
- 県外生徒・保護者は「特になし」が最も高く、次いで「寮の設置」が高かった。

【アンケート調査の概要】

○ 調査の目的

新潟県の強みを活かした魅力と活力ある学校づくりが求められていることから、今後の高等学校教育のあり方について検討するために調査を実施した。

○ 調査対象

1	市町村長・市町村教育委員会教育長	(回答数 50)
2	校長（小学校・特別支援学校）	(回答数 432)
3	校長（中学校）	(回答数 206)
4	校長（高等学校・中等教育学校＝高校等）	(回答数 88)
5	県内生徒（中学校）	(回答数 2,565)
6	県内生徒（高等学校・中等教育学校＝高校等）	(回答数 3,451)
7	県内保護者・PTA会長	(回答数 6,295)
8	県内大学生・専門学校生・社会人	(回答数 192)
9	首都圏・隣接県の中高生及びその保護者	(回答数 2,324)

○ 調査方法及び期間

調査方法	実施期間	対 象
記述	平成27年7月13日 ～7月31日	市町村長・市町村教育委員会教育長・校長 PTA会長
インター ネット	平成27年7月17日 ～8月16日	県内生徒・県内保護者 県内大学生・専門学校生・社会人 首都圏・隣接県の中高生及びその保護者

Ⅳ 高校等再編整備計画策定外部有識者会議

1 委員名簿(敬称略)

氏 名	所 属 等
若井 彌一 (座 長)	京都光華女子大学 副学長
大澤 義明	筑波大学システム情報系社会工学域 教授
米田 徹	糸魚川市 市長
野口 一則	株式会社シアンス 代表取締役社長
佐川 正博	新潟県戦略産業雇用創造プロジェクト 事業統括者
井上 幸直	五泉市教育委員会 教育長
川端 弘実 早川 義裕	新潟県中学校長会 会長 (第1回) 新潟県中学校長会 会長 (第2回以降)
草間 俊之 石井 充	新潟県高等学校長協会 会長 (第1回) 新潟県高等学校長協会 会長 (第2回以降)
堀川 義徳	新潟県小中学校PTA連合会 会長
野澤 裕朗	新潟県高等学校PTA連合会 会長

【教育委員会】

○ 幹事

教育次長(幹事長) 中山 道夫
 総務課長 高橋 和巳
 義務教育課長 大野 雅人
 高等学校教育課長 石井 充(第1回)
 // 飯田 昭男(第2回以降)

○ 事務局

高等学校教育課 参事(事務局長) 飯田 昭男(第1回)
 // // 藤澤 健一(第2回以降)
 // 企画振興係長 仲野 孝
 // 企画振興係管理主事 遠藤 浩

2 開催日時

回	日 時	会 場
1	平成27年 3 月 26 日 (木) 10:00～12:00	新潟県自治会館201会議室
2	平成27年 4 月 28 日 (火) 14:00～16:00	新潟県自治会館別館902会議室
3	平成27年 6 月 2 日 (火) 15:00～17:00	新潟県自治会館別館第 1 研修室
4	平成27年11月 2 日 (月) 9:30～11:30	新潟県自治会館別館第 1 研修室
5	平成28年 2 月 5 日 (金) 15:00～17:00	新潟県自治会館別館第 1 研修室

【参考】

高校等再編整備計画策定外部有識者会議設置要綱

(設 置)

第 1 条 新潟県立高等学校等における今後の再編整備のあり方について検討するため、高校等再編整備計画策定外部有識者会議(以下「会議」という。)を設置する。

(構成等)

第 2 条 会議の委員は、別表に掲げる委員をもって構成する。ただし、委員が欠席する場合は、委員の所属団体から代理が出席することができる。

2 任期は、委嘱の日から平成28年 3 月 31 日までとする。

3 会議の座長は、委員の互選により選出する。

(会議の進行等)

第 3 条 会議の進行は座長が当たり、支障がある場合は、座長が指定する者がそれに当たる。

2 座長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(幹 事)

第 4 条 会議には、幹事を若干人置く。

2 幹事は、新潟県教育庁職員の中から教育長が任命する。

(事務局)

第 5 条 会議の事務局は、教育庁高等学校教育課に置く。

(雑 則)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、事務局が別に定める。

附 則 この要綱は、平成27年 3 月 26 日から実施する。

3 会議の概要

◆ 第1回 (H27.3.26)

【中長期的な高校等再編整備計画の策定に向けて】

- ◇ 県内外の意見を収集するため、外部調査機関によるアンケート調査を実施し、その結果に基づき「素案」を作成する。
- ◇ 素案公表後、地域別説明会やパブリックコメントを実施し、平成27年度中に、正式な中長期的な高校等再編整備計画を公表する。

【主な意見等】

1 地域の視点

- 若者は、一旦外に出てしまうと戻って来ないため、地元に着定する人が減り、子どもも減るという負の連鎖が起きている。学校は地元の活力の源であり、地元企業に人材を送る必要もある。
- 政策的な面で知事と教育委員会が連携しなければ、新たな再編整備計画は少子化の中で埋没してしまう。地域の資源や人材をつなげて特色化を図り、選択と集中を進めながら、厳しい時代だからこそ教育に力を入れていく。
- 富山県は、「コンパクトシティ化」のため、北陸本線沿線でコンパクトな町づくりを進め、その中で高校配置を行っている。

2 学校規模

- 平成14年の中長期再編整備計画においても統廃合について検討し、4～8学級といった学校規模を示している。団体競技の部活動や、学校行事の実施、選択科目数を確保できるような教員配置のためにも、一定規模が必要である。
- 特色を生かしながら子どもたちに魅力ある学校づくりを進めたい。小中学校は、学級数に応じて教員数が決まるため、ある程度の規模は必要であると考えている。
- 小中学校でも、旧市町村を越えた統廃合が見られるようになり、地域そのものをどのようなエリアで見ていくかが大切であり、地域の見直しを検討した上で、高校の配置を考えるべきではないか。

3 生徒の現状

- 県内高校生等を対象とした意識調査によると、高い地位につきたいと思う日本の生徒の割合は、アメリカ、中国、韓国に比べて低く、新潟県はさらに低いという結果が出ている。
- 本県の高校生は、内向きで意欲が乏しいという結果であるが、若者たちの意識は、時代や大人の意識を映す鏡として捉える必要がある。

◆ 第2回 (H27.4.28)

【主な意見等】

1 地域・保護者の視点

- 地域の子どもは地域が育てるという言葉がある。地域が魅力ある社会だと教えていかなければ、地域の子どもは育たない。
- 親の立場で考えると、魅力ある高校とは「かせげる大人」をつくり、世の中に出していく学校だと思う。新潟県が「夢おこし政策プラン」で掲げるような、新潟県ならではの産業を伸ばすことができる高校、学科があるとよい。

2 特色・魅力ある学校

- 具体的に魅力は何か。自然、米や酒がよいと言っても通じない。それを教育の中でどう示すかは、地域が関わっていくべきである。魅力を示すには、教育現場、行政、地域、自治体、家庭が一丸となってやることが大事である。
- 県の再編整備計画に必要なものは「らしさ」だと思う。新潟県らしさや、その地域らしさ。新潟県は自然に恵まれていて、四季がはっきりしていることを生かし、職業観を育てれば良い。地域の特色を活かすことが大事である。
- 意識調査結果では、新潟県の生徒は安定性を求め、モチベーションが低いということだが、これはアンチテーゼだと思う。変革を求める風土がないため、生徒は個性を発揮できる機会を求めている現れと捉えれば、自己有用感をもたせる工夫が必要ではないのか。

3 再編整備への考え

- 生徒数が減少し、財政的にも厳しい中、これまで以上にマネジメント・経営の視点が必要である。
- 短期的には、学校をどうやって分散配置から集中配置へ変えていくのか。分散配置のメリットは地域人材と交流できること、デメリットには維持管理コストがある。一方、集中配置にはスケールメリットがあり、選手数の多い部活動のためには必要である。また、生徒同士が競い合いながら成長するという面でもスケールメリットは必要である。マイナス面は、高校までの通学距離が伸びることである。マネジメントの観点、スケールメリットの観点から言えば、集中配置となるのではないか。
- 社会のニーズが大きく変化し、グローバル化の大きな流れがある。また、理工系のニーズも大きい。中等教育の整理が必要なタイミングではないか。

◆ 第3回 (H27.6.2)

【主な意見等】

1 特色・魅力ある学校

- ある程度の人数がいないと切磋琢磨できず、スポーツだけでなく、学力にも影響がある。これから人が減っていくので、部活動に社会人を入れるなど、様々な形を組み合わせていき、社会性を育て、出口を展望させていく。
- 大学と地元企業が連携して研究することは、お互いの利害関係が一致し、学生は就職先の確保、企業は優秀な人材の確保につながっている。高校でも、必要な人材を育てるために地元が協力することができないか。
- 県外からも生徒を呼べるような特色ある学科について、グローバル化が進む中で、英語だけで授業するような学科はどうか。高校卒業後に、外国で働くだけの会話ができるようになるなど、様々な特色を考えてもらいたい。

2 学校規模

- グローバル化の中で、新潟県が攻めに転じるためには、仕事をするということに焦点を当てながら、学級数を考えてもらいたい。
- 1学級40人とし、部活動などを効果的に実施するために、学校規模を1学年あたり4～8学級とすることについて、こうした基準は必要であると考え。また、本県には新潟市の中心部や中山間地、離島もあるので、一概には言えないが、1つの基準としてこの考え方に全く異論はない。
- 高校は、中学校のベースの上に、地域の担い手や、将来の国家の形成者など、大きな夢と希望を持って進む学校である。それなりの規模があって、いろいろな教育活動が展開できるような学校を願っている。
- 小中学校は地域密着型であり、分散型でも良いと思うが、高等学校は拠点化、一極集中型になるところがあっても、子供の発達段階等を考えると必要ではないか。その上で適正な規模というものを検討するべきである。
- 高校生になりたい自分を考えるためには、たくさんの友人から刺激を受ける必要があり、そのためにはある程度の規模が必要と考える。

3 再編整備への考え

- 全国の状況を見ると、「何年続けて定員割れの場合、募集停止」と、はっきり示しているところもある。本県は広く、佐渡もあり、人口の偏りもあるということで、基準を設ける場合、いろいろな例外を考えることになる。

◆ 第4回（H27.11.2）

【主な意見等】

1 アンケート結果について

- 12の高校像についての回答が分散しているように感じるが、中学生段階で進路に対するビジョンが明確でないことの現れではないか。
- 生徒・保護者、学校関係者、自治体で温度差があることが興味深い。生徒・保護者の意見を中心に考えるべきではないのか。
- 遠方への通学について、能動的な意見も感じとれ、そうした意見は大切にすべきである。
- アンケート結果に頼りすぎず、この会議の参加者であるそれぞれの分野の専門家としての意見も出していくべきである。

2 将来構想における「高校のすがた」について

- これまでの高校と新たに示す「高校のすがた」の違いがわかりにくい。
- 今後、グローバルな人材育成は必須となっていくことから、どのように育成していくのかが伝わるようにすべきである。
- 独自に分類した5つの「高校のすがた」は大変興味深く感じる。

3 学校・学科の配置における6つのエリアについて

- 6つのエリアは適切であり、妥当であると考ええる。
- 新潟市とその周辺のエリアの生徒数が多くなるが、五泉・東蒲地域からはおよそ半数が旧新潟市の高校に入学する状況から考えて、この地域を単独で残す必要はない。

4 基本方針について

- 「県外からも生徒が集まる」という表現は、県としての意気込みを感じ、「地域との連携を深化させた人づくり」には、新しさがある。
- グローバル人材の育成ということを盛り込むべきである。

5 将来構想全体について

- 他県では、学校数を示している例もあるが、再編整備の方向性を示すという意味で今回は学校数を示さず、具体的な内容については別に示すことでよい。
- 今の生徒は親元から離れたがらないが、状況によっては全寮制の高校などの整備も考えた方がよい。

6 地元の支援について

- 小規模でも学校を残す場合には、必ず担保を示すべきである。
- 自治体が行う高校への支援は、子どもたちの夢を実現するために行っているものであり、本来は高校教育の中で完結すべきものであると考える。

◆ 第5回 (H28.2.5)

この会議では、素案公表後の地域別説明会やパブリックコメントでの意見・要望を踏まえ、修正・追加する部分に対する意見とともに、表記に関する意見もいただきました。

【主な意見等】

1 地域別説明会について

- 来場者の発言からは、地元の高校の統廃合に関心があることが伝わってくる。

2 「県立高校の将来構想」の全体について

- 保護者同士で話をしたところ、大枠については妥当と捉えているようであるが、今後の具体的な計画について、強い関心を持っている。

3 高校の5つのタイプについて

- 5つのタイプが分かりにくいという意見が多いため、その中身については説明文などを工夫し、生徒・保護者が自分の目標に合わせて、明確に進路選択できるにようにしてほしい。
- 現在の枠組みをリセットして5つのタイプを設定するが、平成30年度から新しいすがたになるのか、それとも平成39年度か。
- 成案で新たに加えた、5つのタイプと従来の学科の関係を示すイメージ図は、良い整理ができており、わかりやすくなったと思う。
- 各学校は、それぞれの特色を、中学校の教員や生徒及びその保護者に対して、これまで以上にアピールしていく必要がある。

4 県立高校と市立・私立高校との関係について

- 現状のままでは、市立・私立高校の定員の割合が上がっていくことになるため、募集定員について協議が必要ではないか。

5 今後の学校の対応について

- 新しいタイプの高校が示されているが、それぞれに対応するためには、かなり教員のスキルが必要になると思う。
- 5つの高校のタイプが設定されれば、先生方はこれに向かって教育活動を進めていくものと考えている。
- 学校の力だけでは限界があるため、外部の力を借りる必要がある。大学進学への指導や特別支援教育など、専門家の力を借りるための環境整備も必要である。
- 現在は地域と学校が直接連携しにくい状況もあることから、外部の支援のあり方について県としての考えを示しても良いのではないか。

V 地域別説明会

1 実施状況について

会 場	実施日	開催時間	来場者数	発言者数
燕三条地場産業振興センター	12月4日(金)	19:00～20:30	100	7
南魚沼市民会館	12月5日(土)	14:00～15:30	171	9
新潟市秋葉区文化会館	12月7日(月)	19:00～20:30	56	8
新潟市巻文化会館	12月9日(水)	19:00～20:30	27	4
十日町地域地場産業振興センター	12月12日(土)	14:00～15:30	49	10
糸魚川市民会館	12月13日(日)	14:00～15:30	70	8
上越文化会館	12月18日(金)	19:00～20:30	76	10
新潟ユニゾンプラザ	12月19日(土)	19:00～20:30	73	9
アミューズメント佐渡	12月19日(土)	19:00～20:30	58	11
胎内市産業文化会館	12月20日(日)	14:00～15:30	64	7
長岡市立劇場	12月21日(月)	19:00～20:30	96	10
合 計			840	93

2 質問・意見等について

(1) 内容別一覧

番号	内 容	件数
①	学校の統廃合について	34
②	高校の5つのタイプについて	32
③	学科等の設置について	14
④	募集学級数について	13
⑤	アンケート調査・地域別説明会・パブリックコメントについて	13
⑥	生徒の通学について	10
⑦	地域や産業界との連携強化について	10
⑧	少人数学級について	8
⑨	素案本文の表現について	8
⑩	適正な学校規模について	5
⑪	その他	24
合 計		171

※ いただいた意見等は、上記の11項目に分けて抜粋しました。

(2) 主な内容

① 学校の統廃合について

- ・生徒数が減少する中、学校の統廃合はやむを得ないと考えている。
- ・高校の存続は地域の活力に影響するため、地域性を考慮してほしい。
- ・4学級に満たない学校は、基本的になくなると考えて良いか。
- ・あえて小規模が妥当とする学校とはどのような学校か。
- ・地元(個別)の高校を是非存続してほしい。
- ・具体的な学校名が入った計画は、いつ頃公表されるのか。
- ・普通科系の高校は数が減ってしまうのか。

② 高校の5つのタイプについて

- ・「専門分野を探究する高校」と「学科総合型の産業高校」の違いは何か。
- ・中途退学者のためにも、「エンカレッジの高校(注)」は必要と考える。
- ・中高一貫教育校のあり方については、どのように考えているのか。
- ・エリアによって、高校のタイプの割合が異なるのはなぜか。
- ・高校のタイプに合わせて、教員の指導力向上が必要ではないか。

③ 学科等の設置について

- ・地域の特徴を生かして観光学科の設置を考えてほしい。
- ・メディカルコースや医療専攻の設置について検討してほしい。

④ 募集学級数について

- ・募集学級数はできるだけ早めに示してほしい。
- ・H31年度以降の募集学級数は、いつ頃公表されるのか。
- ・エリアによって、中学校卒業者数に対する募集定員の余裕が異なるように感じる。

⑤ アンケート調査・地域別説明会・パブリックコメントについて

- ・アンケート調査において、現場の先生の考えを直接調査してほしい。
- ・アンケート調査の選択肢が細かく、中学生にはイメージが難しい。
- ・地域別説明会やパブリックコメントの内容を公表する予定はあるか。

⑥ 生徒の通学について

- ・生徒の通学手段が限られていることを踏まえて計画してほしい。
- ・寮や交通費の補助について、県教育委員会はどのように考えているか。
- ・適正な通学時間はどのくらいと考えているか。

⑦ 地域や産業界との連携強化について

- ・基本方針の中で、「地域との連携を深化させた人づくりの推進」が一番大事だと考える。
- ・地域の産業界と連携した取組を進めてほしい。
- ・学校づくりについては、地域の特色が反映されるようにしてほしい。

⑧ 少人数学級について

- ・40人以下の少人数学級を実現し、学級数を維持してほしい。
- ・少人数学級を国へ申し出ることはしないのか。
- ・1クラス40人というのは法律で決まっているのか。

⑨ 素案本文の表現について

- ・将来を担う人材とはどのような人材のことか。
- ・先端産業とはどのようなものか。
- ・高齢化対策に関する文章を本構想の中に入れてほしい。

⑩ 適正な学校規模について

- ・学校が小規模になると、勉強だけでなく、部活動や生徒会活動の活力が低下する。適正規模は5クラス以上と考えている。
- ・中山間地の適正規模をどう考えているか。
- ・「エンカレッジの高校(注)」の適正規模はどうなるのか。

⑪ その他

- ・学校の統廃合が避けられず学校が減る場合には、1つの学校に様々なタイプの役割を持たせるよう柔軟に対応してほしい。
- ・県として想定する大学進学率はどのくらいか。
- ・学校の小規模化への対応として、ICTの活用を考えてほしい。

(注) 素案における「エンカレッジの高校」を「柔軟な学びを可能とする高校」に変更しました。

Ⅵ パブリックコメント

1 意見募集期間

平成27年12月 2 日(水)～12月28日(月)

2 「県立高校の将来構想(仮称)」の素案の公表方法

- (1) 県庁のホームページに掲載
- (2) 県庁行政情報センター、地域振興局等での閲覧、配布

3 意見の提出方法

郵便、ファクシミリ、Eメールのいずれかの方法により提出(様式自由)

4 意見の提出状況

- (1) 意見提出者 30人
- (2) 意見件数 106件

5 質問・意見等の主な内容

① 学校の統廃合について

- ・統廃合の是非については、地域の活力ではなく、生徒のためを考え対応策を取るべきなので、統廃合は必要と考える。
- ・新潟県は南北に長く、交通機関が未整備の地域もあり、通学に伴う生徒の負担を考え、どの学校を統廃合すべきかは慎重に検討してほしい。
- ・地域や学校の特殊性を生かして地域の高校として存続させてほしい。

② 基本方針について

- ・県外から生徒が来るような学校とはどのような学校なのか。

③ 高校の5つのタイプについて

- ・普通高校の削減策は、生徒・保護者の希望に添えていないのではないか。
- ・独自に示した5つのタイプと現在の高校の関係がわかりにくい。
- ・「エンカレッジの高校(注)」は、現在の定時制や通信制とどう違うのか。

(注) 素案における「エンカレッジの高校」を「柔軟な学びを可能とする高校」に変更しました。

④ 学科等の設置について

- ・医学部進学者の増加を目指すコースの設置をできるだけ早めてほしい。
- ・スポーツ分野に関係した学科やコースの設置を検討してほしい。

⑤ 生徒の通学について

- ・過疎地域から高校が消滅すると、生徒は長時間をかけて他の地域の学校に通うことになる。経済的かつ精神的な負担となる。また、長い通学時間は、部活動や生徒会活動を阻害するのではないかな。

⑥ 地域や産業界との連携強化について

- ・地域の課題を生徒も一緒に参加しながら共に学び、「地域をつくる」高校が求められているのではないかな。

⑦ 少人数学級について

- ・1996年からは全県一律40人学級編制とした。今こそ、35人以下学級、さらに30人以下学級を実現したらどうか。

⑧ 適正な学校規模について

- ・多様な人間関係、選択科目や部活動の充実を考えるのであれば、9学級以上でも問題ないのではないかな。

⑨ その他

素案に対するパブリックコメントの他に、教育行政に対する意見・要望がありました。

- ・教育委員会だけで実行することが難しい事柄は、官民あげて対策をとることが本質的な課題解決への近道ではないかな。
- ・全県1学区を見直し、通える地元の高校を存続すべきではないかな。
- ・ICTを駆使した授業は、家庭でも受けることが可能であるが、こうした学び方を将来どう取り入れていくのかも示してほしい。
- ・公立と私立との連携をどう保つかという視点がはっきりしない。
- ・アンケート結果を反映し、難関大学への進学指導を充実させてほしい。
- ・ITと農業・一次産業に力を入れてほしい。

※ パブリックコメントでいただいた意見とその反映状況等については、高等学校教育課のホームページに掲載しています。

- 「県立高校の将来構想」及び関連資料の閲覧は県の行政情報センターで行っています。また、必要な資料のコピー(有料)も可能です。

【行政情報センター】

住所：〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 県庁行政庁舎1階

電話：025-280-5273 ファックス：025-283-5065

- 「県立高校の将来構想」及び関連資料の内容については、新潟県教育庁高等学校教育課企画振興係にお問い合わせください。

【新潟県教育庁高等学校教育課企画振興係】

住所：〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 県庁行政庁舎15階

電話：025-280-5614 ファックス：025-285-7998